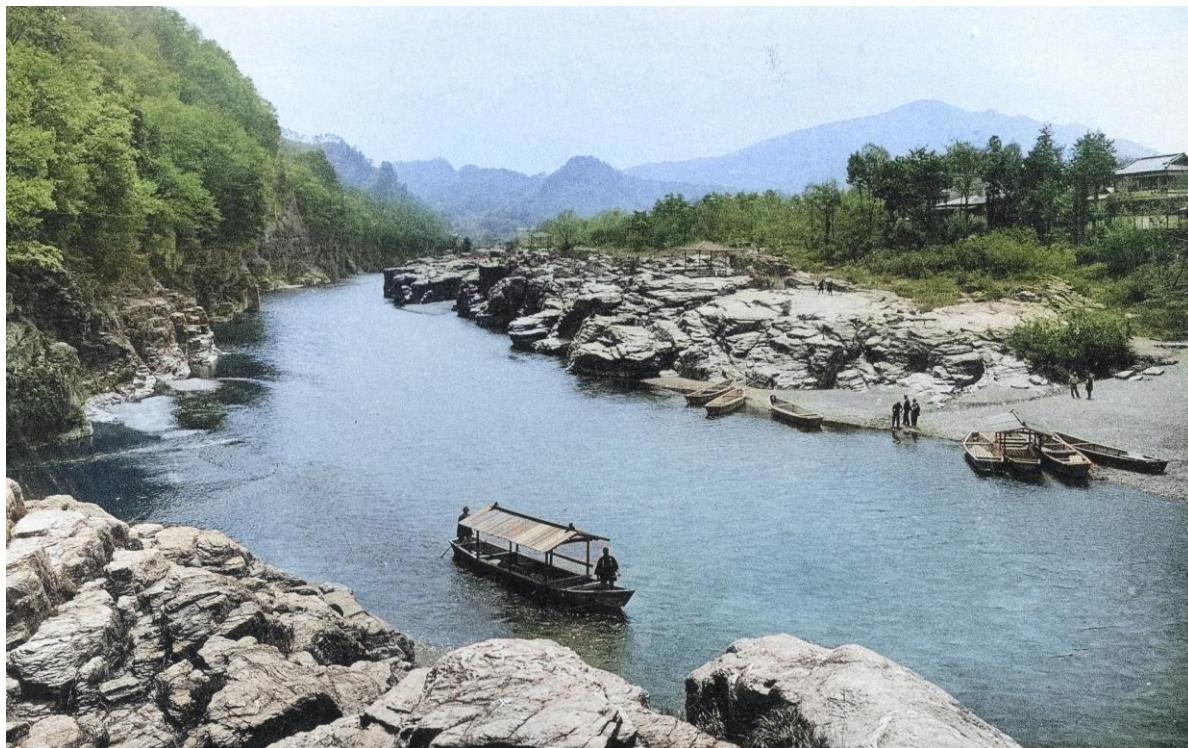


埼玉県立自然の博物館報

第20号

令和7年度（2025）



埼玉県立自然の博物館

目 次

埼玉県立自然の博物館の使命について	1
I 沿革	2
II 組織及び職員構成	5
III 施設の概要	6
IV 展示の概要	7
V 令和7年度事業計画	
1 中期的な目標と取組	8
2 管理運営事業	8
3 展示事業	8
4 教育普及事業	10
5 資料収集整理事業	12
6 調査研究事業	13
7 博物館評価会議	14
VI 令和6年度事業報告	
1 管理運営事業	15
2 展示事業	17
3 教育普及事業	21
4 資料収集整理事業	32
5 調査研究事業	36
6 令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート	46

表紙：およそ100年前の長瀬・岩畳の風景

令和6年度、「長瀬」が国・名勝及び天然記念物に指定されてから百周年を迎えた（大正13年12月9日指定）。写真は大正末期から昭和初期の絵葉書（モノクロをカラー化したもの）。指定当初、岩畳上には樹木や草本がほとんど存在せず、岩盤が露出していた。上流にダムが建設されて以来、長瀬を流れる荒川の平均水位は約2m低下し、洪水時には岩畠上に土砂が堆積するようになったため、現在では植物が生い茂り、かつての景観が失われつつある。

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

川の博物館と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民のみなさんとともに考え方行動しながら、旺盛な博物館活動を開いていきます。

1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します。（データバンク機能）

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料や、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

2 資料を活用し、多彩な情報を発信します。（情報発信機能）

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します。（学習支援・人材育成機能）

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

4 様々な人々と連携・交流を進めます。（連携・交流・啓発機能）

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

I 沿革

昭和

51. 12 埼玉県中期計画に基づき自然系博物館の建設設計画検討
52. 5 準備事務を県民文化課から文化財保護課に引継
52. 11 県立自然系博物館建設基本計画決定
52. 11. 16 埼玉県立自然系博物館建設基本構想策定協議会委員 14 名委嘱
53. 4. 1 自然系博物館設立準備委員 2 名発令
53. 6. 16 自然系博物館建設敷地決定（長瀬町）
54. 2. 6 埼玉県立自然系博物館展示構想策定委員 4 名委嘱
54. 4. 1 準備委員 4 名発令（2名増員）、建設敷地等について秩父鉄道（株）と協定締結
54. 9. 25 建築基本及び実施設計を前川国男建築設計事務所～委託
55. 4. 1 埼玉県立自然史博物館（仮称）準備事務所開所、職員所長以下 5 名発令
55. 4. 17 埼玉県立自然史博物館（仮称）建築工事起工式挙行
55. 9. 19 展示企画・基本設計委託（7 社）
55. 10. 1 準備事務所職員 10 名発令（5 名増員）
56. 1. 26 展示実施設計を（株）日展に委託
56. 3. 31 建築工事完成
56. 4. 1 準備事務所職員 19 名発令
56. 4. 30 展示製作業務を（株）日展と契約
56. 10. 30 展示工事完成
56. 11. 10 埼玉県立自然史博物館条例、同管理規則施行
埼玉県立自然史博物館開館、館長須藤和人以下職員 18 名発令
56. 11. 11 一般公開
56. 12. 3 博物館法第 10 条による博物館登録
59. 4. 1 館長 三友清史発令
60. 10. 9 入館者累計 50 万人達成
60. 12. 9～21 アケボノゾウ骨格化石発掘調査
61. 4. 1 館長 紺野雄三発令

平成

1. 4. 1 館長 島田道郎発令
2. 4. 21 入館者累計 100 万人達成
3. 3. 12 日本生命財団から展示総合案内寄贈
3. 4. 1 館長 大熊欽一発令
3. 10. 19～11. 24 開館 10 周年記念特別展「よみがえる太古の巨大ザメ」開催
5. 5. 12 天皇・皇后行幸啓
5. 12. 12 「日本地質学発祥の地」記念碑建立式典挙行
6. 4. 1 館長 中島利治発令
6. 10. 1 入館者累計 150 万人達成
6. 11. 21 新化石種「チチブサワラ」公表
7. 2. 28 身障者用エレベーター設置
7. 3. 15 映像展示「地形の変遷」改修
7. 12. 25 映像展示「ミクロ・マクロの世界」改修
8. 3. 27 第 1～第 3 収蔵庫空調機オーバーホール
9. 3. 31 吸收冷温水発生機修繕工事
9. 7. 22 地形模型、变成岩パネル等展示改修
9. 7. 25 秋篠宮殿下同妃殿下お成り
9. 10. 31 冷却塔水処理装置工事
10. 2. 28 特別収蔵庫空調機器交換工事
10. 4. 1 館長 梅沢太久夫発令
10. 9. 30 公共下水道接続工事
11. 3. 19 「パレオパラドキシア」埼玉県天然記念物指定（埼文指第 462・463 号）
11. 5. 30 生物展示ホール「シャクナゲ咲く初夏の原生林」・「暗黒の世界鍾乳洞」にタッチライト設置
11. 7. 17～8. 31 特別展「アユの生活誌」をさいたま川の博物館と共に
12. 4. 1 館長 増田逸朗発令
12. 8. 15 入館者累計 200 万人達成
12. 8. 23 生物展示ホール「みどりこい夏のアカマツ林」にタッチライト設置
12. 10. 1 館長 大友務発令
13. 5. 8 生物展示ホール「冬枯れの雜木林と池や沼」にタッチライト設置
14. 3. 18 生物展示ホール照明改修
14. 3. 26 身障者用駐車場改修
14. 6. 21 パレオパラドキシア般若標本の産出状態レプリカを展示
14. 8. 9 オリエンテーションホールの照明改修
14. 10. 5～12. 8 特別展「奥秩父の自然」開催
14. 10. 8～12. 8 特別展「ヤマネー森に棲むもの 西村豊写真展」開催

15. 4. 1 館長 谷井彪発令
15. 10. 4～12. 9 特別展「里山の自然」開催
16. 12. 27 駐車場改修工事完了（第二工区）
17. 3. 22 「大野原産チブクジラ骨格化石」埼玉県天然記念物指定（埼文指第 503 号）
17. 4. 1 館長 柿沼幹夫発令
17. 10. 8～12. 4 特別展「石の用と美」開催
18. 4. 1 県立博物館施設の再編により「県立自然の博物館」設置
18. 4. 1 館長 柿沼幹夫発令（川の博物館長と兼務）
18. 7. 22～9. 3 特別展「巨大昆虫の世界」開催
19. 4. 1 館長 本間岳史発令（川の博物館長と兼務）
19. 11. 23 入館者累計 250 万人達成
20. 2. 2 展示室リニューアルオープン
20. 4. 1 館長 本間岳史発令（兼任）
20. 4. 1 環境担当（川の博物館常駐）を設置
20. 7. 20～8. 31 特別展「巨大昆虫の世界 II」開催*
21. 4. 1 館長 鈴木敏昭発令
21. 7. 18～8. 81 特別展「埼玉圏の原始・古代人」開催*
22. 4. 1 館長 井上肇発令
22. 9. 18～11. 14 特別展「葉の世界—そのかたちと利用を探るー」開催*
23. 4. 1 館長 根岸玲発令
23. 9. 1～24. 10. 5 施設改修のため休館
(講師派遣等館外で行う事業は実施)
23. 9. 17～11. 20 特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと秩父のおごつおう」開催*
24. 4. 1 館長 渋澤重雄発令
24. 7. 14～9. 2 特別展「今だって氷河時代」開催*
24. 10. 6 リフレッシュオープン
25. 4. 1 館長 井上尚明発令
25. 7. 13～9. 1 特別展「和船大図鑑—荒川をつなぐ舟・ひと・モノー」開催*
26. 4. 1 館長 井田秀夫発令
26. 6. 11～10. 26 特別展「恐竜時代～海と陸の支配者たち～」開催
26. 10. 4～11. 24 特別展「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々のくらし～」開催*
27. 7. 11～8. 31 特別展「うんち・糞・フン～ダンゴムシからゾウまで～」開催
27. 7. 18～8. 31 特別展「魚と人の知恵くらべ～魚の生態と伝統漁法～」開催*
28. 3. 1 国天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」指定（パレオパラドキシア及びチブクジラ計 3 件県指定解除埼文指第 462、463、503 号）
28. 4. 1 館長 中村修美発令
28. 4. 1～6. 19 特別展「都幾川・槻川」開催*
28. 8. 12 入館者累計 300 万人達成
28. 9. 24～29. 1. 15 特別展「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」開催
29. 4. 1 館長 木村博昭発令
29. 7. 15～9. 3 特別展「神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」開催*
29. 9. 23～30. 1. 14 特別展「秩父鉱山～140種の鉱物のきらめき～」開催
30. 6. 30～9. 2 特別展「ハチを知る」開催
30. 11. 3～31. 1. 6 特別展「カモ・鴨～見・知・獲・食～」開催*
31. 4. 1 館長 飯田徹発令
- 令和**
1. 7. 6～2. 1. 13 特別展「知って！埼玉 化石でたどる 2000 万年」開催
1. 7. 13～1. 9. 1 特別展「根・子・ネズミ～ネズミワールドへようこそ～」開催*
2. 7. 11～2. 9. 6 特別展「楽しい美味しい江戸の水辺」開催*
2. 9. 26～3. 2. 28 特別展「埼玉記念物 100 年－埼玉の天然記念物ってどう思いますか？－」開催
3. 4. 1 館長 橋本強発令
3. 7. 10～3. 8. 31 特別展「すみか～身近なすみかを見てみよう～」開催*
3. 7. 30 「チチブサワラ骨格化石」埼玉県天然記念物指定（埼文指第 571 号）
3. 10. 30～4. 2. 27 特別展「自然の博物館 100 年の軌跡」開催
4. 4. 1 館長 田沼康雄発令
4. 7. 9～4. 8. 31 特別展「海なし雪なし火山なし－ないけどある！埼玉との深い関係ー」開催*
4. 10. 29～5. 2. 26 特別展「The 蛇紋岩」開催
4. 11. 11 入館者累計 350 万人達成
5. 7. 8～5. 8. 31 特別展「うんち・糞・フン II」開催*
5. 10. 28～6. 2. 25 特別展「埼玉シェルワールドー貝からひも解く埼玉の自然ー」開催
6. 4. 1 館長 高津導発令
6. 7. 6～6. 9. 1 特別展「自然の“国宝”展～天然記念

物からみた埼玉の自然～」開催*

7.3.8～7.6.15 特別展「秩父鉱山の面影～ニッツツが

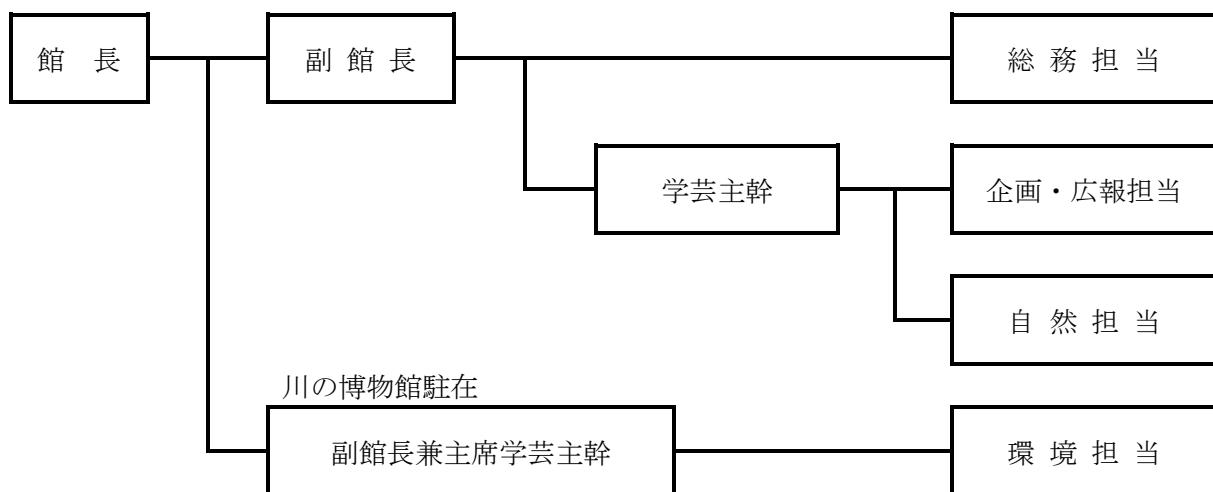
所蔵した希代の鉱物標本群～」開催

7.4.1 館長 細野仁発令

*印 企画＝自然の博物館、実施＝川の博物館

II 組織及び職員構成（令和7年度）

1 組織



2 職員構成（令和7年4月1日現在）

館 長	細 野 仁
副館長兼主席学芸主幹	岩 田 明 広
副 館 長	新 井 祐 司
○総務担当	
担当部長	野 村 浩
主任任	渡 邊 杏 里
主任事	光 山 馨 心
○企画・広報、自然担当	
学芸主幹	井 上 素 子
○企画・広報担当	
担当課長	渡 辺 優
担当課長	大 澤 豪 人
主任事	小 柴 あ か り

○自然担当	
主任学芸員	小 林 ま さ 代
主任学芸員	奥 村 み ほ 子
主任学芸員	北 川 博 道
学芸員	木 山 加 奈 子
学芸員	本 多 里 奈
学芸員	岩 浪 创
学芸員	三 上 忠 仁
学芸員	加 藤 凉 雅
○環境担当	
学芸員	半 田 宏 伸
学芸員	山 岡 勇 太

※ 副館長兼主席学芸主幹、環境担当は川の博物館駐在。

3 人事異動

令和7年3月31日

館 長	高 津 導 (転 出)
総務担当担当課長	菊 池 拓 真 (転 出)
企画・広報担当担当部長	加 藤 浩 一 (転 出)
企画・広報担当担当課長	横 田 淳 (転 出)

令和7年3月31日

自然担当学芸員	高 橋 美 織 (任期満了)
---------	----------------

令和7年4月1日

館 長	細 野 仁 (転 入)
総務担当担当部長	野 村 浩 (転 入)
企画・広報担当担当課長	渡 邊 優 (転 入)
企画・広報担当担当課長	大 澤 豪 人 (転 入)
自然担当主任学芸員	北 川 博 道 (配置転換)
自然担当学芸員	三 上 忠 仁 (臨時の任用)
自然担当学芸員	加 藤 凉 雅 (臨時の任用)
環境担当学芸員	山 岡 勇 太 (配置転換)

III 施設の概要

1 所在地

埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417番地の1

2 敷地面積

9,948.76m²

3 建物の構造及び床面積

鉄筋コンクリート、2階建、建築面積 2,068.6m²、延床面積 3,022.29m²

4 各部門及び各室の面積

(1) 展示部門 1,160.0m²(38.4%)

エンタランスロビー(78m²)、オリエンテーションホール(254m²)、地学展示ホール(303m²)、生物展示ホール(342m²)、さわれるはく製コーナー(5m²)、企画展示室(150m²)、ディスカバリーコーナー(22m²)、植物コーナー(6m²)

(2) 教育部門 269.5m²(8.9%)

講堂(150m²)、準備室(43m²)、科学教室(73.5m²)、倉庫(3m²)

(3) 研究部門 202.5m²(6.7%)

学芸員室(132m²)、図書室(70.5m²)

(4) 技術部門 158.4m²(5.2%)

化石処理室(27m²)、石工室(27m²)、植物標本製作室(27m²)、動物標本製作室(27m²)、工作室(23.6m²)、くん蒸室及び同前室(16m²)、暗室(10.8m²)

(5) 保管部門 529.9m²(17.5%)

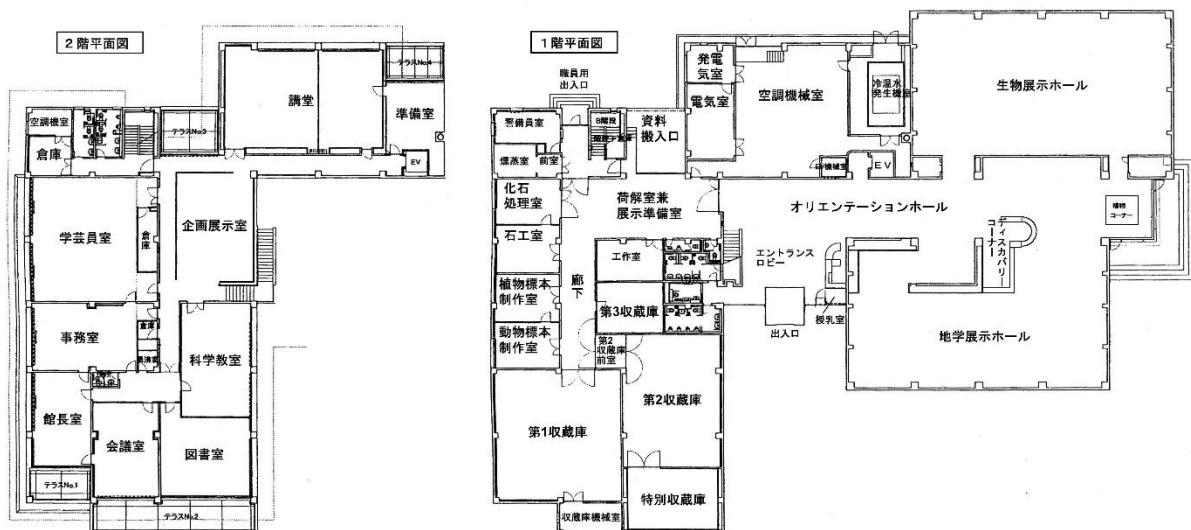
第1収蔵庫(149m²)、第2収蔵庫及び同前室(125.7m²)、第3収蔵庫(28.8m²)、特別収蔵庫(58.4m²)、資料搬入口(36m²)、荷解室兼展示準備室(90m²)、搬入通路(42m²)

(6) 管理部門 498.1m²(16.5%)

館長室(47.3m²)、事務室(63m²)、会議室(54m²)、警備員室兼清掃員室(20.8m²)、倉庫(23.8m²)、機械室(261.5m²)、空調機械室(9.7m²)、収蔵庫機械室(18m²)

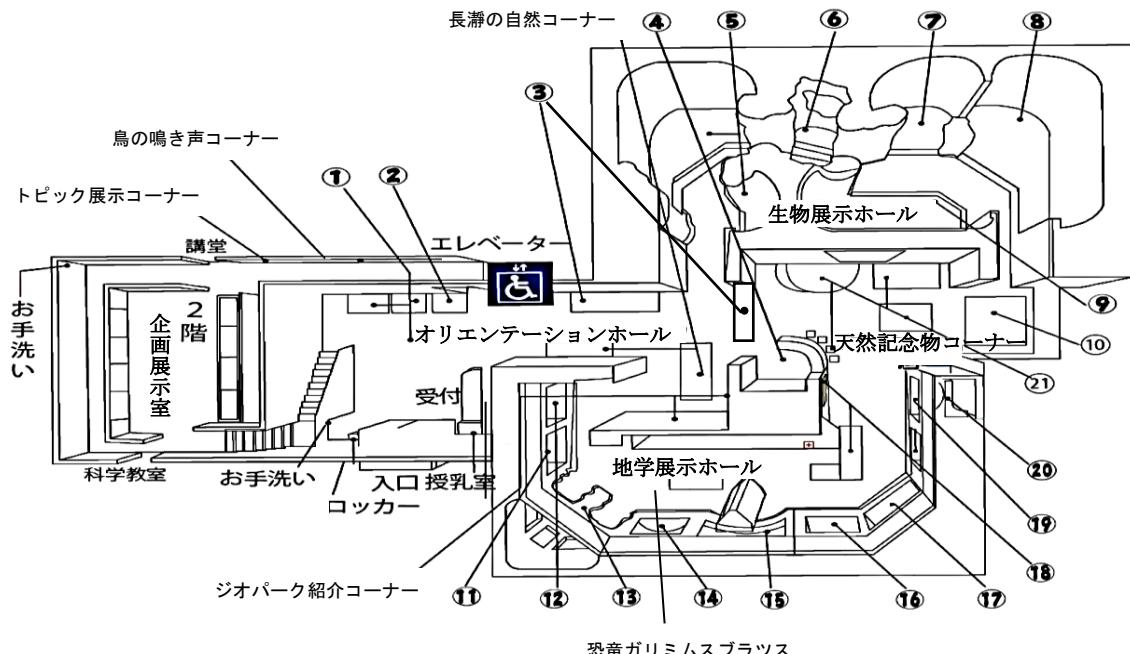
(7) その他(共通) 203.89m²(6.7%)

エレベーター(11m²)、湯沸室(3m²)、トイレ(4ヶ所・66.8m²)、階段・廊下(123.09m²)



IV 展示の概要

1 展示ホールの概要



2 展示テーマ (丸数字は上の図と対応している)

◇ オリエンテーションホール

- ・ (総合サイン) 過去から未来へ
埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生
- ・ カルカロドンメガロドン①
- ・ 埼玉県のシンボルコーナー②
- ・ 埼玉の多様な生きものコーナー③
(さわれるはく製コーナー含む)
- ・ 長瀬の自然コーナー
- ・ ディスカバリーコーナー④
- ・ 植物コーナー⑩

◇ 地学展示ホール

- ・ ジオパーク紹介コーナー
長瀬の地質
秩父・長瀬の地質学史と博物館のあゆみ
長瀬の自然コーナー (岩疊紹介コーナー)
- ・ 大洋の時代
2億5000万年前の海⑪
秩父中・古生層⑫
秩父鉱山⑬
- ・ 大陸の時代
恐竜時代の化石⑭
恐竜ガリミムスプラス
埼玉の変成岩⑮
- ・ 古秩父湾の時代
盆地と丘陵の化石⑯

・ 新時代の幕あけ

- メタセコイアの森⑯
- ゾウのきた道⑯
- アケボノゾウ骨格復元模型⑯
- ヒトの時代⑯

◇ 天然記念物コーナー

- チチブクジラ・オガノヒゲクジラ頭骨化石⑯
- パレオパラドキシア(化石・復元模型)⑯

◇ 生物展示ホール

- ・ シャクナゲ咲く初夏の原生林⑤
- ・ 石灰岩にきざまれた自然の造形、鍾乳洞⑥
- ・ 石灰岩地と鍾乳洞の生き物⑥
- ・ いろどられるブナ林と渓流⑦
- ・ 冬枯れの雜木林と池や沼⑧
- ・ みどりのこい夏のアカマツ林⑨

◇ 企画展示室 (2階)

各ホールの展示とは別に、年3~4回テーマを設定し展示。

◇ トピック展示コーナー (2階)

自然に関するさまざまな話題を紹介する展示。

◇ 鳥の鳴き声コーナー (2階)

身近な鳥のはく製を展示し、その鳴き声を音声ガイドにより聞くことができる。

V 令和7年度事業計画（令和7年4月1日現在）

1 中期的な目標と取組

(1) 計画的な資料整理の重点化

- ア 館有資料所在点検実施計画の見直しと実施
- イ 収蔵スペースの確保。配架の見直し等による効率的な収蔵計画の推進

(2) 資料活用促進のための環境整備

- ア データベース公開
- イ 資料画像化
- ウ 計画的な常設展示更新

(3) 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化

- ア 開発プログラム実施
- イ 令和8年度「文化庁 Innovate Museum 事業」採択に向けた取組

(4) 調査研究の充実

- ア 長瀬自然遺産調査の実施
- イ 基礎的調査研究の環境整備

2 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を推進するため、自然の博物館全般の円滑な管理運営に努める。

3 展示事業

展示の充実を図るとともに、県民の多様なニーズに応えるため、次の事業を実施する。

(1) 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 常設展示の充実

生物展示ホール及び岩畳紹介コーナーの展示物を定期的に交換し、タイムリーな季節の情報を発信するとともに、鳥コーナー、埼玉の生物コーナー、地学展示ホール、岩石・化石コーナーの展示物の更新を隨時実施し、資料の劣化防止及び活用を図る。

イ 「体験ゾーン」の維持管理

ディスカバリーコーナー、植物コーナーでの展示物の更新を隨時実施する。

ウ 常設展示メンテナンスのための臨時休館

比較的規模の大きな修繕、照明、展示物の交換などを、来館者の最も少ない時期に集中的・計画的に実施する。

期 間：令和8年1月27日（火）～30日（金）の予定

(2) 特別展の実施

ア 「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」

期 間：令和7年4月1日（土）～令和7年6月15日（日）※前年度から継続

会 場：企画展示室

概 要：令和4年に石灰石採掘事業を停止した秩父鉱山（ニッチツ鉱山）の歴史をたどりながら、株式会社ニッチツ秩父事業所より寄贈を受けた100点余りの標本群を展示する。

イ 「群れる鳥」

期 間：令和7年10月25日（土）～令和8年2月23日（月・祝）

会 場：企画展示室

概 要：絵画のモチーフやニュースの一幕として、私たちを魅了し恐怖させる鳥の群れ。どうして鳥は群れをつくるのか、その理由や、群れる鳥のユニークな生態などを紹介する。

ウ 「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界」

（企画・監修：自然の博物館、運営：川の博物館）

期 間：令和7年7月12日（土）～令和7年9月15日（月・祝）

会 場：川の博物館 第2展示室・リバーホール

概 要：昆虫は地球上でもっとも繁栄した生物の一つで、世界に100万種以上が知られている。本展示では、そんな昆虫の標本に焦点を当てて、標本を見ることでわかる昆虫の多様性について紹介する。

(3) 企画展示の実施

ア 「新収集品展」

期 間：令和7年6月28日（土）～令和7年10月13日（月・祝）

会 場：企画展示室

概 要：博物館では活動の充実のために継続的な資料収集が行われている。最近4年間に収集した資料を紹介する。

イ 「植物たちの生き残り術」

期 間：令和8年3月7日（土）～令和8年3月31日（火）※次年度へ継続

会 場：企画展示室

概 要：自由に動き回ることの出来ない植物たちは、刺や毒を備えたり景色に溶け込んだりと様々な方法で身を守っている。植物たちの驚きの生き残り術について紹介する。

(4) トピック展示の実施

ア 「埼玉の森をつくる木たち」

期 間：令和7年4月1日（火）～令和7年6月15日（日）※前年度から継続

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

概 要：第75回全国植樹祭埼玉2025において、天皇・皇后両陛下がお手植えされる樹種について、生態や県内の分布、利用などを紹介する。

イ 「標本制作の技（地質編）」

期 間：令和7年6月17日（火）～令和7年10月5日（日）

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

概 要：野外で採集した化石をクリーニングや整形を通して標本化する手法や、観察や研究の進め方を紹介する。

ウ 「埼玉のきのこ」

期 間：令和7年10月7日（火）～令和8年1月25日（日）

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

概 要：絶滅危惧種のきのこや愛称で親しまれているきのこなど、県内で見られる代表的なきのことその生育環境を紹介する。

エ 「古秩父湾 国・天然記念物指定10年のあゆみ」

期 間：令和8年1月31日（土）～令和8年3月31日（火）※次年度へ継続
会 場：2階廊下 トピック展示コーナー
概 要：国天然記念物指定から10年の節目を迎える「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」の普及のあゆみを振り返りながら、古秩父湾の学術的価値を解説する。

(5) 共催展示の実施

ア 寄居町教育委員会との共催展 ※3か年計画の1年目

「寄居町小学校巡回企画展」

期 間：Ⅰ期 令和7年12月頃、Ⅱ期 令和8年1月頃

会 場：Ⅰ期 寄居町立用土小学校、Ⅱ期 寄居町立折原小学校

概 要：身近な自然を紹介し、環境について考える機会を提供する。

4 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、体験学習等の機会を提供する。

(1) 自然史講座 7回（7日）

(2) 観察会 7回（7日）

(3) ミュージアムトーク 12回（12日）

(4) 各団体との共催・協力事業 10回

ア 天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」古秩父湾作業部会関連事業

主催：秩父地区文化財保護協会古秩父湾作業部会

- ・ 令和6年度古秩父湾フォト&書コンテスト巡回展
- ・ 令和7年度古秩父湾アート&書コンテスト
- ・ 国天然記念物指定10周年記念イベント

イ ジオパーク秩父関連事業

主催：秩父まるごとジオパーク推進協議会

- ・ 事業提案及び運営協力
- ・ ジオパーク秩父基本計画及び保全計画の作成協力
- ・ 日本ジオパーク再認定審査への協力

ウ 長瀬観光関連事業

主催：長瀬町観光協会

- ・ 青紅葉ライトアップ
- ・ 「長瀬観光の日」記念イベント
- ・ 紅葉ライトアップ

主催：長瀬町、長瀬町教育委員

- ・ 名勝及び天然記念物「長瀬」岩畳リフレッシュ大作戦

エ 川の博物館活動支援

主催：埼玉県立川の博物館

- ・ 川の博物館県民の日イベント「自然の博物館がやってきた！」

(5) その他の事業

埼玉県民の日記念イベント

(6) 学校教育への学習支援

ア 講師派遣

要請に応じて地質分野、生物分野の出張授業や講演・講義、展示解説、自然体験プログラムを実施する。

イ 教育物品の貸出

ウ 貸出キットの貸出

エ 指導者対象の講座の開催

教員を対象に当館の学校教育における活用について説明する講座を実施する。

オ 各種研修会・教育研究団体の受入れ

2回（2日）

県立総合教育センター主催の教員研修会を積極的に受け入れる。

- ・ 中学校5年経験者研修（教科別研修・理科）

（1日）

- ・ 中学校初任者研修（教科別研修・理科）

（1日）

カ 学校教育支援プログラムの作成

キ 職場体験学習等の受入れ

- ・ 中学生職場体験実習（1校あたり2日間）

- ・ 障害者県庁職場実習（職場体験コース）（3日間）

(7) 社会教育関係団体等への支援

要請に応じて地質分野、生物分野の講師派遣、展示解説、指導・助言及び物品貸出を実施する。

(8) 博物館実習の受入れ

期 間：令和7年9月17～20日、24～26日

（7日間）

(9) 自然の博物館友の会の活動への支援

野外観察会（5回）、交流会（1回）、県民の日イベントの支援（1回）

(10) ボランティアスタッフの受入れ

生涯学習や自己実現の場を提供するとともに、ボランティアを重要なパートナーとして博物館活動の質を高める。

ア 展示解説ボランティア

観覧者の要望により随時展示解説を行う。※年4回の研修会を行う。

イ 普及事業ボランティア

観察会・講座等の事業の補助を行う。

ウ 資料整理ボランティア

学芸職員とともに、標本化作業を行う。

エ 調査・資料収集補助ボランティア

学芸職員とともに、博物館の調査研究・資料収集を行う。

(11) 各種印刷物の刊行・配布

ア 館報 第20号

イ 研究報告 第20号

ウ イベント展示案内ミュージアムカレンダー（イベント年間予定表）

エ ニュースレター「瀬」第45号、第46号

- オ 特別展「群れる鳥」展示解説書、ポスター及びリーフレット
- カ 川の博物館特別展「昆虫いろいろ～標本から見える昆虫の世界～」展示解説書（執筆・編集）及びポスター・リーフレット（企画・構成）
- キ 企画展「新収集品展」のポスター及びリーフレット
- ク 企画展「植物たちの生き残り術」のポスター及びリーフレット
- ケ 展示解説リーフレット
- コ 自然史講座や観察会のテキスト、研究発表会の資料

(12) レファレンス

国および地方公共団体、一般市民等から動物・植物・地質分野及び環境分野の質問に回答する。

(13) 広報・広聴の推進

- ア Web（ホームページ、X）での情報発信

特別展や企画展、各イベントに関する情報をはじめ、周辺で見られた季節の移り変わりの様子や出来事、関連施設や地域の情報などをホームページやXで情報を発信する。

- イ メディア等への情報提供

5 資料収集整理事業

自然に関する資料を収集・整理・保管し、県民に供するため、次の事業を実施する。

(1) 資料の収集・整理

資料収集方針に基づき以下の資料を収集する。

また、資料整理のための集中作業期間（令和8年1月27日（火）～30日（金））を設定する

- ア 埼玉で採集された動物資料

- イ 埼玉で採集された植物資料

- ウ 埼玉で採集された鉱物、岩石及び化石資料

- エ アからウの資料に關係する、埼玉以外の地域で採集された動物・植物・鉱物・岩石・化石資料

- オ アからウの資料を理解する上で重要な資料

- カ 展示及び普及事業に資する資料

(2) 資料の登録

埼玉県立自然と川の博物館評価会議資料評価部会において、資料評価（真偽の鑑定、学問的評価、価格の査定等）を受けた資料を、登録資料台帳に登録する。ただし、軽易なものについては、館長が資料評価を行う。

(3) 資料管理

- ア IPMに基づいた環境調査

館内39か所に捕虫器を仕掛け、毎月1回（月末）に回収、捕獲したものの中から資料に影響を及ぼす可能性のある昆虫を確認し、それに基づく環境管理を行う。

- イ 収蔵資料点検

登録資料所在点検実施計画に基づき、登録資料の所在及び保存状態を確認する。

- ウ 資料の燻蒸

収蔵庫の薬剤による燻蒸を行う。（臨時休館 令和7年9月5日（金）～12日（金））

(4) 資料の活用

- ア 資料の特別利用
 - イ 資料の館外貸出
 - ウ 資料の展示活用
- (5) 資料のデジタルアーカイブ化
- ア 資料の画像化
 - 植物標本及び鉱物標本を中心に、年間1000点を目標に実施する。
 - イ 画像台帳の更新
 - 既存又は新規に撮影した資料の画像を画像台帳に登録する。
- (6) インターネットを通じての資料の公開
- ア 登録資料台帳の公開
 - (ア) 当館ホームページにおける登録資料台帳の公開
 - 計画に基づき、公開情報の確認作業が終わった分野から順次登録資料台帳（文字情報）を公開していく（4か年計画の1年目）。
 - (イ) サイエンスミュージアムネットへの情報提供
 - 全国の自然系博物館及び大学の収蔵標本情報を検索することができる「サイエンスミュージアムネット」（運用：国立科学博物館）に登録資料の情報を提供する。
 - (ウ) ジャパンサーチへの情報のリンク
 - 書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学など、様々な分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム「ジャパンサーチ」（運用：国立国会図書館）へデータの連携を行う。
 - イ 主要な資料の紹介
 - (ア) 当館ホームページにおける主要な資料の紹介
 - 計画に基づき主要な資料について、画像・解説をつけて紹介する（4か年計画の1年目）。
 - 今年度は「古秩父湾の化石」・「埼玉県の外来生物」について公開する。
 - (イ) ジャパンサーチへの情報のリンク
 - (ア)を「ジャパンサーチ」（運用：国立国会図書館）へ連携する。
- (7) 図書資料の収集・整理と活用
- ア 図書資料の収集・整理
 - 自然史分野に関係した図書資料を収集する。
 - イ 文献交換
 - 当館の研究報告・資料目録・展示図録・ニュースレターと、国内外の博物館、大学研究所などの文献と交換を行う。

6 調査研究事業

館の総合研究テーマ「埼玉の自然史及び自然と人々との関わりに関する研究」に基づき、館の使命である自然史資料の収集・保管及び調査研究による将来への継承を達成するための調査研究を行う。研究の成果は、研究報告書等で公表し、展示・教育普及事業等で活用するように努める。

- (1) 組織的に行う総合的調査研究
- ア 自然遺産基礎調査「長瀬自然遺産調査」
 - 5か年計画の2年目。

イ 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

特別調査2か年計画の2年目。カモシカ保護管理の基礎資料として活用されるカモシカ保護地域における生息環境・生息状況・食害状況に関する現地調査を行う。

(2) 収蔵資料の価値付けに係る調査研究

ア 職員や専門家による収蔵資料の同定・再同定

イ 収蔵資料を用いた埼玉の自然史に関する研究

(3) 展示及び普及事業に係る調査研究

ア 次年度以降開催の特別展・企画展に関する調査研究

イ 観察会・講座で扱う地域やテーマに関する調査研究

(4) 職員が総合研究テーマに基づき個人テーマを設定して行う調査研究

(5) 上記以外の情報収集及び現地調査等

(6) 外部研究者の受入れと活用

施設や収蔵資料を外部研究者の利用に供することにより研究活動を支援するとともに、共同研究を行うなど埼玉の自然に関わる情報を集積する。

7 博物館評価会議

外部委員から構成される埼玉県立自然の博物館評価会議において、

① 自然の博物館が行う事業全般に係る評価について、意見を述べる。

② 自然の博物館事業の実施状況について、意見を述べる。

③ 自然の博物館及び川の博物館における収集資料の真偽の鑑定、学問的評価、価格の査定等を行う。

委員氏名（敬称略）	役職
松原聰	国立科学博物館名誉館員・名誉研究員
木場英久	元桜美林大学教授
清水晃	東京都立大学客員研究員・(一財)進化生物学研究所客員研究員
染川香澄	ハンズ・オン プランニング代表
五味良子	文化財・博物館課主任
白井亮大	(一財)長瀬町観光協会理事
井深道子	長瀬町教育委員会教育長

VI 令和6年度事業報告

1 管理運営事業

埼玉の自然及び自然と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、整理保管、調査研究及び教育普及、展示事業等を円滑に推進するため、自然の博物館全般の管理運営に努めた。

(1) 歳出決算

(単位：千円)

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
管理運営費	19,069	21,590	17,884	17,563
資料収集整理事業費	661	1,036	1,056	1,074
展示・教育普及事業費	12,574	11,453	8,556	7,803
合 計	32,304	34,079	27,496	26,440

(2) 令和6年度観覧者状況

月	有料観覧者			無料観覧者			合計	開館日数		
	一般	学生・生徒	計	一般	学校等利用					
					校数	人数				
4	2,478	126	2,604	1,618	3	237	1,855	4,459		
5	3,055	129	3,184	1,821	9	533	2,354	5,538		
6	2,497	150	2,647	1,434	12	573	2,007	4,654		
7	3,879	213	4,092	2,656	27	1,370	4,026	8,118		
8	7,174	634	7,808	5,453	7	223	5,676	13,484		
9	2,934	290	3,224	1,801	9	290	2,091	5,315		
10	2,370	90	2,460	1,419	24	991	2,410	4,870		
11	4,753	193	4,946	2,527	14	1,287	3,814	8,760		
12	1,659	146	1,805	775	8	322	1,097	2,902		
1	1,682	59	1,741	854	3	105	959	2,700		
2	1,862	185	2,047	1,101	4	86	1,187	3,234		
3	2,525	238	2,763	1,490	0	0	1,490	4,253		
合計	36,868	2,453	39,321	22,949	120	6,017	28,966	68,287		
								313		

(3) 施設の利用状況

ア 講堂

58 件

番号	申請者	利用日
1	埼玉栄中学校	R6. 4. 18
2	皆野町立皆野小学校	R6. 4. 24
3	浦和大学	R6. 5. 11
4	埼玉県立自然の博物館 友の会	R6. 5. 12
5	秩父市立荒川西小学校	R6. 5. 22
6	上尾市立尾山台小学校	R6. 5. 23

7	日高市立武藏台小中学校	R6. 5. 31
8	ボイスカウト練馬第10団カブスカウト隊	R6. 6. 1
9	鳩山町立今宿小学校	R6. 6. 6
10	武南中学校	R6. 6. 12
11	深谷市立花園小学校	R6. 6. 13
12	埼玉県立川の博物館	R6. 6. 20
13	北本市立南小学校	R6. 6. 20
14	埼玉県立騎西特別支援学校	R6. 6. 27
15	埼玉県立和光南特別支援学校	R6. 7. 2
16	白百合学園	R6. 7. 5
17	嵐山町立菅谷中学校	R6. 7. 5
18	熊谷市立吉岡中学校	R6. 7. 5
19	朝霞市立朝霞第三小学校	R6. 7. 16
20	和光市立北原小学校	R6. 7. 23
21	縁ドーナツ	R6. 7. 23
22	花積幼稚園	R6. 7. 24
23	合気道掌法会	R6. 7. 25
24	松原カルチャークラブ	R6. 7. 25
25	新座市立新座小学校	R6. 7. 26
26	学童保育所みらい	R6. 7. 27
27	放課後子供教室	R6. 7. 27
28	新座市立東野小学校	R6. 7. 29
29	エルステップス	R6. 7. 31
30	昭島台スマミングスクール	R6. 8. 1
31	ジャクパスポーツクラブ千葉第二支部	R6. 8. 1
32	内藤アカデミー	R6. 8. 8
33	ボイスカウト足立第5団	R6. 8. 19
34	放課後等デイサービス 彩みどり	R6. 8. 22
35	東京YMC A港区芝浦アイランド交流プラザ	R6. 8. 30
36	桶川市立桶川中学校	R6. 9. 5
37	新座市立栄小学校	R6. 9. 24
38	秩父こども園	R6. 9. 27
39	武藏野自然クラブ	R6. 9. 29
40	上福岡西公民館	R6. 10. 6
41	みたけ保育園	R6. 10. 10
42	入間市立藤沢小学校	R6. 10. 11
43	桃の木保育園	R6. 10. 12
44	目白研心中学校	R6. 10. 18
45	開智所沢小学校	R6. 10. 19
46	加須市立鴻茎小学校	R6. 10. 23
47	秩父市立影森小学校	R6. 10. 25
48	秩父市立第一小学校	R6. 10. 29

49	秩父市立南小学校	R6. 10. 29
50	深谷市立深谷西小学校	R6. 10. 30
51	深谷市立藤沢小学校	R6. 10. 31
52	東京学芸大学附属世田谷中学校	R6. 11. 1
53	長瀬町講演会	R6. 11. 30
54	入間市立東町小学校	R6. 12. 12
55	深谷市立岡部小学校	R7. 1. 17
56	美里町立松久小学校	R7. 2. 21
57	こどものまちプロジェクト	R7. 3. 27
58	花園ミニバス	R7. 3. 30

イ 会議室

23 件

番号	申請者	利用日
1	埼玉県立自然の博物館 友の会	R6. 4. 19
2	獨協埼玉中高サイエンス部	R6. 6. 23
3	ボーイスカウト熊谷第2団カブ隊・ビーバー隊	R6. 6. 29
4	ガールスカウト埼玉県第67団	R6. 7. 14
5	コンフィアンサスポーツクラブ	R6. 7. 15
6	新座市立東野小学校	R6. 7. 29
7	エムズ学童クラブ	R6. 7. 30
8	ヴェルペンスマイルスタジオプラス・猿田	R6. 8. 2
9	放課後等デイサービス 縁キッズ熊谷	R6. 8. 5
10	逗子開成中学校・高等学校生物部	R6. 8. 10
11	放課後等デイサービスくれよん	R6. 8. 15
12	日本基督教団弓町本郷教会 教会学校ハイスクール科	R6. 8. 18
13	立教大学社会学部	R6. 8. 21
14	放課後等デイサービス 999 伊勢崎 2	R6. 8. 24
15	埼玉県立自然の博物館 友の会	R6. 9. 13
16	ときがわ町立平保育園	R6. 10. 29
17	埼玉県立熊谷特別支援学校	R6. 10. 30
18	長瀬町講演会	R6. 11. 30
19	埼玉県立自然の博物館 友の会	R6. 12. 8
20	けやき子ども園	R6. 12. 13
21	ちよこたび埼玉	R6. 12. 26
22	ChaCha Children Iruma	R7. 2. 21
23	埼玉県立自然の博物館 友の会	R7. 3. 14

2 展示事業

県民の多様なニーズに応えるため、展示を充実するとともに次の事業を実施した。

(1) 常設展示の充実、改修、補修と維持管理

ア 展示物の更新

長瀬の自然コーナーの展示物を季節ごとに交換し、資料の劣化を防ぐとともに、博物館周辺で

観察できる生物の情報をリアルタイムで紹介した。また触察剥製2点（タヌキ・アナグマ）生物展示ホールの剥製2点（モガモ・カルガモ）を更新した。

イ 展示機材等の補充・管理

パレオパラドキシア般若標本展示ケースの照明をLED化した。

ウ 体験ゾーンの維持管理

ディスカバリーコーナーの展示物の追加・修繕に努めた。

(2) 特別展の実施 *（ ）は副担当

ア 「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」

期 間：令和7年3月8日（土）～令和7年3月31日（月）

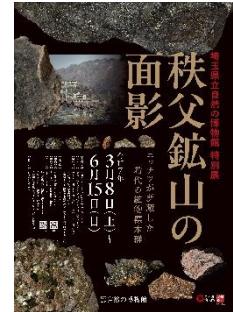
※次年度に継続

会 場：企画展示室

見学者：3,815名

担 当：小林（高橋）

概 要：秩父鉱山の歴史をたどりながら、(株)ニッチツ秩父事業所から寄贈され、令和7年3月に県・天然記念物に指定された140点余りの鉱物標本群を紹介した。



イ 「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」

（企画・監修：自然の博物館、運営：川の博物館）

期 間：令和6年7月6日（土）～令和6年9月1日（日）

会 場：埼玉県立川の博物館 第2展示室及びリバーホール

見学者：27,032名

担 当：北川（半田）

概 要：県内には3件の国指定特別天然記念物や、カモシカなど地域を定めない特別天然記念物のほか、多くの国・県指定の天然記念物が所在する。県内の国・県指定天然記念物を中心に、県が長年実施しているカモシカの生息調査の結果などを紹介し、埼玉県の自然の特徴や、文化財保護制度についての理解を図った。



(3) 企画展の実施 *（ ）は副担当

ア 「入間川流域の自然遺産調査から見えたこと」

期 間：令和6年4月1日（月）～令和6年6月16日（日）

※令和6年3月9日（土）から継続

会 場：企画展示室

見学者：12,525名（前年度からの合計 15,816名）

担 当：高橋（木山）

概 要：令和元年度から5年度にかけて実施した入間川流域の自然遺産調査の結果、新たに分かった生き物や地質のすがたを調査手法とあわせて紹介した。

イ 「外来生物 in 埼玉！」

期 間：令和6年6月29日（土）～令和6年10月14日（月・祝）



会 場：企画展示室

見学者：30, 154名

担 当：本多（奥村）

概 要：外来生物には、人の生活や従来の生態系に影響を及ぼすものがいる一方で、身近な生物として親しまれてきたものもいる。「外来生物とは何か？」という原点に立ち返り、外来生物の概要や各種の特徴、その扱い方を解説し、埼玉県内における外来生物を取り巻く状況を紹介した。



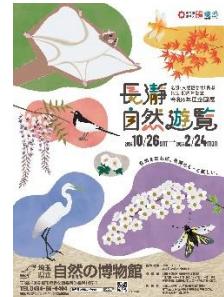
ウ 「長瀬自然遊覧」※「名勝及び天然記念物『長瀬』100周年記念事業」関連展示
期 間：令和6年10月26日（土）～令和7年2月24日（月・祝）

会 場：企画展示室

見学者：18, 549名

担 当：木山／山岡（岩浪）

概 要：国の名称及び天然記念物に指定されてから100周年を迎える「長瀬」の魅力を改めて見つめる。結晶片岩が作り出す美しい景観と、特徴的な自然環境がはぐくむ多様な生物を紹介した。



(4) トピック展の実施 *（ ）は副担当

ア 「空から見た入間川」

期 間：令和6年4月1日（月）～令和6年6月16日（日）※令和6年2月27日から継続
会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

見学者：12, 525名（前年度からの合計 16, 547名）

担 当：山岡

概 要：博物館職員がヘリコプターから撮影した写真を用いて、入間川本流周辺の地形や自然環境を紹介した。

イ 「生痕化石の世界」

期 間：令和6年6月18日（火）～令和6年10月6日（日）

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

見学者：25, 209名

担 当：山岡

概 要：県内や日本各地で見られる様々な生痕化石を紹介した。

ウ 「標本制作の技（動物編）」

期 間：令和6年10月18日（火）～令和7年2月2日（日）

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

見学者：18, 802名

担 当：奥村・高橋

概 要：はく製や骨格標本など様々な動物標本の種類とつくり方を紹介した。

エ 「埼玉の森をつくる木たち」

期 間：令和7年2月4日（火）～令和7年3月31日（月）※次年度に継続

会 場：2階廊下 トピック展示コーナー

見学者：7, 102名

担 当：岩浪（本多）

概 要：第75回全国植樹祭埼玉2025において、天皇・皇后両陛下がお手植えされる樹

種について、生態や県内の分布、利用などを紹介した。

(5) 共催展示の実施

ア 寄居町教育委員会との共催展 ※3か年計画の3年目。

「寄居町小学校巡回企画展～生き物の秘密を大発見！～」

期 間：Ⅰ期 令和6年 6月24日(月)～令和6年 7月 5日(金)

Ⅱ期 令和6年11月25日(月)～令和6年12月 6日(金)

会 場：Ⅰ期 寄居町立桜沢小学校

Ⅱ期 寄居町立男衾小学校

概 要：身近に暮らす動物たちを紹介し、環境について考える機会を提供した。

人 数：Ⅰ期 677人

Ⅱ期 557人

イ 熊谷市立熊谷図書館との共催展「第15回(通算第40回)自然科学展～さいたまの動物たち～」

期 間：令和6年7月20日(土)～令和6年8月29日(木)

会 場：熊谷市立熊谷図書館 郷土

概 要：埼玉でみられる動物たちをはく製を使って紹介した。

人 数：2, 820人

(6) 夏休み特別企画「逸品展」の実施

期 間：令和6年7月20日(土)～令和6年9月5日(木)

会 場：1階 ディスカバリーコーナー

見学者：16, 455名

概 要：通常は展示されない収蔵庫内の標本のうち、学芸員選りすぐりの1点を順次1週間から10日間特別に展示し、開催期間中6点を公開した。

3 教育普及事業

県民の自然に関する関心と理解を深めるため、以下のような体験学習等の機会を提供した。

全事業の参加者の合計 8,636 名

(1) 自然史講座

7回（7日）実施 参加者 153名

	日 時	タ イ プル	内 容	参 加 者 数	担 当 者
1	5. 25 (土)	鉱物標本づくり	鉱物の観察を行いながら、鉱物標本セットを組み立てる。	20	高橋 小林
2	6. 15 (土)	うんち比べ、足跡比べ	野生哺乳類の糞や足跡を比べながら、食性の違いなどについて学ぶ。	21	奥村 高橋
3	7. 20 (土)	外来種でつくる昆虫標本	外来昆虫を使って、昆虫標本の作り方や外来昆虫について学ぶ。	29	奥村 半田
4	8. 27 (火)	研究発表会 (熊谷市立熊谷図書館)	博物館に関わる調査や研究について、一般に向けて発表する。	37	北川 半田
5	9. 21 (土)	化石のレプリカづくり	実物化石から石膏模型をつくり、色を付けて本物そっくりに仕上げる。	21	山岡 北川
6	12. 21 (土)	身近な植物でお正月飾り	身近な植物を使って、ミニ門松のお正月飾りを作る。	14	岩浪 本多
7	3. 1 (土)	博物館の標本で動物のからだを調べよう！	博物館の標本から動物の体の特徴を学ぶ。	11	奥村 高橋

(2) 観察会

6回（6日）実施 参加者 118名

	日 時	タ イ プル	内 容	参 加 者 数	担 当 者
1	4. 20 (土)	地衣さんぽ in 長瀬	長瀬岩畳を舞台に、木や岩に着生している地衣類の観察を行う。	16	木山・岩浪 小柴
2	5. 10 (土)	荒川で石の観察 ※地質の日関連事業	講義で岩石の分類や見分け方を学んだ後、荒川の川原で実習を行う。	30	山岡・高橋 横田
3	10. 5 (土)	岩畠でトンボの観察 *雨天により中止	長瀬岩畠に生息するトンボの仲間を中心に生き物について観察。	—	高橋・半田 小柴
4	11. 30 (土)	シダさんぽ in 日高	日高市の日和田山周辺で、シダを中心にはじめ植物を観察する。	15	岩浪・本多 加藤
5	12. 14 (土)	岩畠地質観察会 ※企画展関連事業	長瀬駅から自然の博物館まで、岩畠を歩きながら地質のみどころを解説。	25	高橋・山岡 小柴
6	1. 25 (土)	冬鳥観察（入門編） 荒川で水鳥を観察しよう	荒川を臨みながらハクチョウやカモ類を中心に身近な野鳥を観察する。	17	本多・岩浪 横田
7	2. 8 (土)	冬鳥観察（中級編） 入間川で野鳥を探そう	入間川に沿って歩きながら、小鳥や水鳥を中心に様々な野鳥を探す。	15	本多・岩浪 加藤

(3) ミュージアムトーク

12回（12日）実施 参加者 299名

	期 日	タ イ プル	参 加 者 数	担 当 者
1	4. 28 (日)	企画展「入間川流域の自然遺産調査から見えたこと」展示解説	31	高橋

2	5. 19 (日)	企画展「入間川流域の自然遺産調査から見えたこと」展示解説	14	奥村
3	6. 2 (日)	企画展「入間川流域の自然遺産調査から見えたこと」展示解説	16	木山
4	7. 7 (日)	企画展「外来生物 in 埼玉」展示解説	27	本多
5	8. 8 (日)	企画展「外来生物 in 埼玉」展示解説	38	本多
6	9. 1 (日)	企画展「外来生物 in 埼玉」展示解説	25	奥村
7	10. 27 (日)	企画展「長瀬自然遊覧」展示解説	8	山岡
8	11. 10 (日)	企画展「長瀬自然遊覧」展示解説	16	岩浪
9	12. 22 (日)	企画展「長瀬自然遊覧」展示解説	16	小林
10	1. 26 (日)	企画展「長瀬自然遊覧」展示解説	22	高橋
11	2. 9 (日)	常設展地学展示ホール展示解説	43	山岡
12	3. 16 (日)	特別展「秩父鉱山の面影」展示解説	43	小林

(4) 各団体との共催・協力事業 12回 (185日) 実施 参加者 939名 (集計可能な事業のみ)

	期 日	タ イ ド ル (主 催)	内 容	会 場	参加者数
1	5. 1(水) ～6. 9(日)	青もみじライトアップ (長瀬町観光協会)	館庭 (かえでの森) のライトアップを実施。	自然の博物館	—
2	4. 23(火) ～5. 26(日)	古秩父湾 Instagram フォトコンテスト巡回展 (秩父地区文化財保護協会 古秩父湾作業部会)	令和5年度に実施した古秩父湾 Instagram フォトコンテストの入賞作品を展示。 ※おがの化石館 (5. 29～6. 10)、秩父市歴史文化伝承館 (6. 14～26)、埼玉県立川の博物館 (7. 6～9. 1)、長瀬町中央公民館 (9. 5～16)、横瀬町民会館 (9. 19～29)、皆野総合センター (10. 2～10. 15) にて巡回展。	自然の博物館	—
3	6. 8(土)	名勝及び天然記念物「長瀬」 指定100周年記念特別講座 第1回「地球の窓『長瀬』を探る」 (長瀬町教育委員会)	長瀬町文化財保護審議会委員 本間岳史氏が名勝及び天然記念物「長瀬」の特徴を主に地質学的な視点から講演し、現地見学を行った。	長生館	—
4	6. 11(火)	総合教育センター初任者研修 において博学連携ブース設置 (文化財・博物館課)	普及用資料を総合教育センター出入口付近に設置し、教員の研修生に案内を行った。	総合教育 センター	—
5	7. 16(火)	「長瀬観光の日」記念イベント (長瀬町観光協会主催)	長瀬町観光協会に協力、来館記念水晶プレゼントを実施。	自然の博物館	219
6	9. 15(日)	ながとろ水まつり (名勝及び天然記念物「長瀬」 指定100周年記念事業 実行委員会)	長瀬町教育委員会が協働し、 名勝及び天然記念物「長瀬」 の魅力について、楽しく学べる 「学習の場」ブースを設置した。	長瀬地区公園 (はつらつパーク)	—

7	10. 5(土)	名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念特別講座 第2回「文人墨客が訪れた長瀬」 (長瀬町教育委員会)	若山牧水、高浜虚子、宮沢賢治といった文人墨客が訪れた名勝長瀬を、長瀬町文化財保護審議会委員 村田嘉行氏が文化的側面からその魅力を解説した。	多世代ふれ愛ベースながとろ	—
8	10. 27(日)	げんき体験フェスティバル (小川げんきプラザ)	生き物クイズ・オリジナルポストカード作り体験、さわれるはく製等展示を行った。	小川げんき プラザ	159
9	11. 14(木)	川の博物館県民の日イベントにおいて自然の博物館ブース「自然の博物館がやってきた！」を設置 (川の博物館)	動物のからだの作りについて学んでもらうために触察剥製や昆虫表裏標本等の展示・解説を行った。また、オリジナル塗り絵コーナーを設けた。	川の博物館	479
10	10. 26(土) ~7. 1. 13 (月)	古秩父湾 フォト&書コンテスト (秩父地区文化財保護協会 古秩父湾作業部会)	天然記念物「古秩父湾」に関する写真及び書を応募するフォトコンテスト。	—	82
11	11. 8(金) ~11. 30(土)	紅葉ライトアップ (長瀬町観光協会)	長瀬町観光協会とタイアップして、館庭カエデや館内カルカロドン・メガロドン模型のライトアップを実施。	自然の博物館	—
12	11. 30(土)	名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念特別講座 第3回「日本地質学発祥の地」を訪ねる (長瀬町教育委員会)	長瀬町文化財保護審議会委員 本間岳史氏が「長瀬」での日本地質学史上重要な発見や、研究者たちの偉業について解説した。	自然の博物館	—

(5) その他事業

2回 (2日) 実施 参加者 929名

	期 日	タ イ ド ル	内 容	会 場	参加者数
1	11. 14(火)	県民の日 記念イベント	県民の日クイズ、館外イベントブース・友の会のブース設置を実施。	自然の博物館	929
2	11. 14(火)	埼玉県庁県民の日 イベント	貸出キットの貸出し(昆虫標本裏表標本セット、化石のレプリカの型のセット)、さわれるはく製の貸出し2体	県庁	—

(6) 学校への学習支援

ア 講師派遣

理科や総合的な学習の時間、環境教育等において、出前授業の実施、講義・講演会の講師派遣により支援を行った。

39件 人数 2,252名

	日 時	学校名・学校関係団体名	学 年	人 数	種 別	内 容
1	4. 18(木)	埼玉栄中学校	中 1	147	体験学習	虎岩の観察
2	4. 24(水)	皆野町立皆野小学校	小 2	49	体験学習	虎岩の観察
3	4. 25(木)	羽生市立川俣小学校	小 3	18	出前授業	学校周辺の植物の観察
4	5. 15(水)	東秩父村立東秩父中学校	中 1~3	42	出前授業	動物のからだのつくり
5	5. 23(火)	上尾市立尾山台小学校	小 5	30	体験学習	岩畳の観察

6	6. 5(水)	横瀬町立横瀬小学校	小 4	51	体験学習	水生昆虫の観察
7	6. 6(木)	鳩山町立今宿小学校	小 5	44	体験学習	虎岩の観察
8	6. 12(水)	武南中学校	中 1	59	体験学習	岩畳の観察
9	6. 14(金)	さいたま市立大宮北高等学校	高 1	18	体験学習	岩畳の自然解説 水生昆虫観察
10	6. 20(木)	北本市立南小学校	小 5	78	体験学習	虎岩の観察
11	7. 19(金)	埼玉県立熊谷西高等学校	高 1	43	体験学習	岩畳の成り立ち 紅簾石片岩について
12	7. 19(金)	埼玉県立熊谷高等学校	高 2	42	体験学習	岩畳と紅簾石片岩の観察 (S S H)
13	7. 25(木)	神川町立青柳小学校	小 3・4	23	出前授業	火山灰の観察
14	8. 21(水)	東松山市立桜山小学校	小 4~6	25	出前授業	比企丘陵で見られる野鳥
15	9. 6(金)	埼玉県立松山高等学校	高 1	3	体験学習	昆虫採集の方法と同定 の仕方
16	9. 26(木)	吉川市立栄小学校	小 6	69	出前授業	土地のつくりと変化
17	9. 27(金)	秩父市立吉田小学校	小 6	30	体験学習	岩畳の観察
18	10. 4(金)	羽生市立川俣小学校	小 6	18	出前授業	土地のつくりと変化
19	10. 18(金)	日白研心中学校	中 1	81	体験学習	岩畳の観察
20	10. 19(土)	開智所沢小学校	小 1	104	体験学習	虎岩の観察
21	10. 28(月)	川越市立川越小学校	小 6	106	出前授業	土地のつくりと変化
22	10. 29(火)	秩父市立秩父第一小学校	小 5	37	体験学習	岩畳の観察
23	10. 30(水)	深谷市立深谷西小学校	小 4	82	体験学習	岩畳の観察
24	10. 30(水)	深谷市立桜ヶ丘小学校	小 6	92	出前授業	土地のつくりと変化
25	10. 31(木)	坂戸市立桜小学校	小 6	58	出前授業	土地のつくりと変化
26	11. 6(水)	坂戸市立大家小学校	小 6	32	出前授業	土地のつくりと変化
27	11. 7(木)	秩父市立第一小学校	小 6	28	体験学習	地層と化石の観察
28	11. 15(金)	星野学園小学校	小 6	57	出前授業	化石の種類やそのでき方
29	11. 20(水)	入間市立藤沢北小学校	小 6	132	出前授業	土地のつくりと変化
30	11. 22(金)	川口市立高等学校附属中学校	中 1	85	体験学習	岩畳の自然解説
31	11. 26(火)	鶴ヶ島市立藤小学校	小 6	78	出前授業	土地のつくりと変化
32	11. 29(金)	国立音楽大学附属小学校	小 6	51	出前授業	地層と化石の観察
33	12. 4(水)	東松山市立桜山小学校	小 4	73	出前授業	野鳥についての解説と 野外観察
34	12. 4(水)	川越市立川越第一小学校	小 6	114	出前授業	土地のつくりと変化
35	12. 5(木)	所沢市立西富小学校	小 6	59	出前授業	土地のつくりと変化
36	12. 6(金)	自由学園初等部	小 5	41	体験学習	地層と化石の観察
37	1. 22(水)	深谷市立川本南小学校	小 4	23	体験学習	岩畳の観察
38	12. 12(木)	自由学園 中等部	中 3	88	体験学習	虎岩の観察

39	2. 4(火)	長瀬町立長瀬第一小学校	小3	42	体験学習	岩畳の観察
----	---------	-------------	----	----	------	-------

イ 教育用物品の貸出 1件

	日 時	学校名・学校関係団体名	目的	内 容
1	4. 18(木)	秩父市立大田小学校	化石採集	ハンマー・タガネ

ウ 貸出キットの貸出 2件

	日 時	学校名・学校関係団体名	内 容
1	9. 10(火)	上里町立七本木小学校	昆虫の裏表標本セット
2	3. 23(日)	秩父市立荒川中学校	化石のレプリカ作成用の型のセット

エ 指導者対象講座の開催 1回（1日）実施 参加者 6名

	日 時	タイトル	内 容	参加者数	担当者
1	10. 20(金)	授業に活かせる 自然の博物館活用講座	博物館の利用方法の説明 学芸員による教材作成の解説 岩畳案内のポイント説明	4 内 オンライン 2	横田 小柴 山岡

オ 各種研修会・教育研究団体の受入れ

(ア) 県立総合教育センター主催の教員研修会への協力。 3回（3日）実施 参加者 107名

	日 時	タイトル	内 容	参加者数	担当者
1	9. 17(火)	中学校5年経験者研修 教科等コース（理科）	講義「博物館を利用した理科教育」・「荒川の岩石について」	64	横田 北川
2	1. 9(木)	中学校初任者研修 教科別研修（理科）	講義「博物館を利用した理科教育」	43	横田
3	6. 11(火)	総合教育センターにおける博学連携ブース設置（文化資源課）	普及用資料を総合教育センター研修棟に設置し、研修実施日に教員の研修生（初任者）に案内を行った。	—	横田

(イ) その他の教員研修への協力 2回（3日）実施 参加者 2名

	日 時	タイトル	内 容	参加者数	担当者
1	7. 23(火)	中学校5年経験者研修 社会貢献施設実習	・博学連携について ・普及用資料について	1	横田 奥村
2	7. 23(火) ～24(水)	高等学校5年経験者研修 社会貢献施設実習	・博学連携について ・普及用資料について	1	横田 奥村 小林 木山 岩浪

カ 学校教育支援プログラムの作成

学校教育支援プロジェクトチームを編成し、出張事業や体験学習支援の受入方法や体制の見直し、「学校教育支援プログラム」の骨子を作成した（3年計画の2年目）。

来館時の支援	講師派遣	物品・資料の貸出	映像コンテンツ
○岩畳や虎岩周辺の自然解説		○教育用物品 (化石採集や生物観察に必要な物品の貸出)	○概要説明動画
○概要説明 ○動画視聴 (岩畠・虎岩解説／概要説明)	○体験学習基本プログラム ・水生昆虫の観察 ・校庭等の植物の観察 ・地層と化石の観察 ○出前授業基本プログラム ・動物のからだのつくり ・植物のからだとつくり ・土地のつくりと変化 (火山灰の観察編) (堆積岩の観察編) ※その他の要望により対応	○貸出キット ・昆虫標本裏表セット ・荒川の岩石同定セット ・堆積岩の同定セット ・火山灰セット ・化石のレプリカ作成セット ・骨格標本セット	

このうち、令和6年度は以下の項目を実施した。

- ・出前授業基本プログラムの作成
「葉の観察」・「花の観察」・「動物の骨格」（試行中）
- ・貸出キットの作成
「葉の観察（画像付きスライドショー）」・「花の観察（画像付きスライドショー）」・
「骨格標本セット」・「魚類の透明骨格標本セット」（試行中）
- ・館内概要説明動画の作成

キ 職場体験学習等の受入れ

3回（9日）実施 参加者7名

	日 時	タ イ プ	内 容	参 加 者 数	備 考
1	7.10(水) ～ 7.12(金)	中学生職場体験	展示・資料整理 教育普及等博物館業務体験	3	皆野町立皆野中学校
2	11.6(水) ～ 11.8(金)	中学生職場体験	展示・資料整理 教育普及等博物館業務体験	3	長瀬町立長瀬中学校
3	2.18(火) ～ 2.20(木)	障害者県庁職場実習	広報用グッズづくりの実習	1	

(7) 社会教育関係団体等への支援

40件 人数2,742名

	日 時	社会教育関係団体名	対象	参 加 者 数	種 别	内 容	担当者
1	6.5(水)	宮代町教育委員会	市職員	一	指導助言	石材同定	小林
2	6.20(木)	県立川の博物館	一般	34	体験 (岩畠)	岩畠解説	小林
3	6.25(火)	長瀬町商工会	一般	5	指導助言	長瀬の自然災害 について	井上
4	6.29(土)	長瀬町観光協会	一般	24	展示解説	館内案内（地質）	山岡

5	7. 7(日)	県立川の博物館	一般	35	講義 講座等	特別展展示解説 (カモシカ)	北川
6	7. 16(火)	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	一般	—	指導助言	石材の同定	小林
7	7. 26(金)	さいたま市立与野本町公民館	小学生	42	体験 (その他)	化石のレプリカを作ろう	北川
8	7. 28(日)	県立川の博物館	こども 一般	29	講義 講座等	特別展講演会	北川
9	7. 30(火)	熊谷市立熊谷図書館	こども 一般	30	講義 講座等	さいたまの動物たちについて	奥村
10	8. 6(火)	こざくら学童クラブ	小学生	68	講義 講座等	動物のからだのつくり	奥村 岩浪
11	8. 17(土)	県立川の博物館	こども 一般	28	講義 講座等	特別展展示解説	北川
12	8. 20(火)	ふかや市民大学校友会	一般	218	展示解説	深谷周辺の地形と自然災害	井上
13	8. 30(金)	駿河台大学／飯能市生涯学習課	一般	34	講義 講座等	飯能市の自然	岩浪
14	9. 17(火)	東京大学加藤耕一研究室	大学生 教員	10	展示解説	展示解説（地質）	井上
15	9. 18(水)	生徒指導課	小学生 中学生	22	展示解説	展示解説	奥村
16	9. 19(木)	小鹿野町教育委員会	一般	21	講義 講座等	ようばけと古秩父湾の解説	北川
17	10. 2(水)	秩父市中央公民館	一般	23	体験 (岩畳)	岩畠解説	三上
18	10. 16(水)	埼玉県高校生物研究会	教員	25	講義 講座等	川博周辺の植物観察会	三上
19	10. 19(土)	「清流の国ぎふ」文化祭 2024 瑞浪市実行委員会	一般	400	講義 講座等	パレオパラドキシア展示解説	北川
20	10. 25(金)	県文化財・博物館課	県職員	6	展示解説	新採用研修講師	岩田
21	10. 27(日)	「清流の国ぎふ」文化祭 2024 瑞浪市実行委員会	一般	950	講義 講座等	パレオパラドキシアシンポジウム	北川
22	11. 3(日)	岩手県立博物館	一般	75	講義 講座等	カワネズミの食べもの・カワウの食べもの	本多
23	11. 7(木)	久喜市高齢者大学	一般	25	体験 (岩畠)	岩畠解説	三上
24	11. 17(日)	県立歴史と民俗の博物館	一般	77	講義 講座等	特別展展示解説（鷹）	本多
25	11. 22(金)	阿権浜しぜん館	学生 一般	15	講義 講座等	貝化石	山岡
26	11. 24(日)	秩父まるごと博物館	一般	31	講義 講座等	山中層群の化石	山岡

27	12. 8(日)	羽生市教育委員会	一般	35	講義 講座等	天正二年関宿・羽生城の戦い	岩田
28	12. 13(金)	長瀬町商工会	一般	32	講義 講座等	長瀬町の自然災害	井上
29	12. 13(金)	川口市立科学館	一般	9	講義 講座等	自然博の仕事・埼玉の地質	北川
30	12. 17(火)	秩父市生涯学習課 (秩父学セミナー)	一般	55	講義 講座等	秩父の鳥	本多
31	1. 15(水)	生徒指導課	小学生 中学生	40	展示解説	展示解説	奥村
32	1. 17(金)	名栗げんきプラザ	一般	20	講義 講座等	宝登山の観察会 の講師	三上
33	1. 23(木)	行田市市民大学同窓会	一般	80	講義 講座等	攻城戦の実体	岩田
34	2. 14(金)	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	一般	—	指導助言	遺物の同定	小林
35	2. 15(土)	岩槻観光ボランティアガイド会	一般	55	講義 講座等	忍者	岩田
36	2. 24(月)	NPO 法人入間市文化創造セットワーク	一般	88	講義 講座等	入間市の植物	岩浪
37	3. 4(火)	羽生市教育委員会	市職員	—	指導助言	ムジナモ保存検討委員会	三上
38	3. 9(日)	NPO 秩父の環境を考える会	一般	39	講義 講座等	ハチのくらし・インセクトホテルの役割	半田
39	3. 13(木)	飯能市エコツーリズム市民ガイドツアー	一般	9	講義 講座等	入間川調査結果 (哺乳類)	奥村
40	3. 27(木)	一般社団法人 こどものまちプロジェクト	小学生 大学生 一般	53	体験 (その他)	岩畳、講座 (葉脈標本づくり)	三上

(8) 博物館実習の受入れ

学芸員資格取得のための必須科目である「博物館実習」を実施し、「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき実習生を受入れた。

実施期間：9月19日(木)～9月27日(金) (7日間) ※9.22(日)～23(月)は休み

参加者：11名 (東海大学1名、東京都市大学1名、新潟大学1名、日本大学3名、八洲学園大学1名、立正大学3名、琉球大学1名)

実施内容：展示・資料整理・教育普及等博物館業務の実務実習

(9) 自然の博物館友の会の活動への支援

7回 (8日) 実施 参加者 1,071名

	日 時	タ イ プ	内 容	参 加 者 数	担当者
1	5. 12(日)	岩畠散策	岩畠観察会に同行し、解説。	27	木山
2	5. 18(日)	植物観察会	新潟県三条市でのヒメサユリ見学に同行、解説。	23	岩浪
3	8. 4(日)	総合観察会	小鹿野町小判沢に同行し、解説。	29	岩浪

4	10. 6(日)	動物観察会	春日部夢の森公園での生物観察。	13	本多
5	11. 17(日) 11. 18(月)	宿泊観察会	チバニアンの地層と銚子ジオパークの見学。	20	山岡
6	11. 14(火)	県民の日イベント	ミニショップの運営と友の会の活動内容を紹介するブースを提供。	929	井上 木山
7	2. 2(日)	交流会	自然の博物館で、動物・植物・地質の各分野の話題提供後の情報交換での指導助言。	30	小林

(10) ボランティアスタッフの受入れ

生涯学習や自己実現の場を提供し、博物館活動の質を高めることを目的とする重要なパートナーとして、受け入れた。

ア ボランティアスタッフ

19名 延べ活動日数 184日

- | | | |
|-------------------|-----|-------------------|
| ① 展示解説ボランティア | 10名 | 観覧者に対する展示解説。 |
| ② 普及事業ボランティア | 15名 | 観察会・講座等の事業の補助。 |
| ③ 資料整理ボランティア | 15名 | 標本化作業の補助。 |
| ④ 調査・資料収集補助ボランティア | 11名 | 博物館の調査研究・資料収集の補助。 |

※ ①～④の重複者あり

イ 展示解説ボランティア研修

4回（4日）実施 延べ参加者 29名

展示解説ボランティアの力量を高めるための、常設展示、特別展・企画展、トピック展に関する研修会及び意見交換会を実施した。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ① 第1回 5月16日（木） 8名 | ② 第2回 7月18日（木） 5名 |
| ③ 第3回 11月 7日（木） 8名 | ④ 第4回 3月13日（木） 8名 |

(11) 各種印刷物の刊行・配布

特別展や企画展、各イベント等あるいは博物館の活動を広く周知するため、下の表1のとおりポスター、リーフレット、チラシ、図録を作製・配布した。

表1 (表中の「主な配布先」の記号については、表2を参照)

印 刷 物 名	部 数	主な配布先
埼玉県立自然の博物館報 第19号	電子データ送付	B
埼玉県立自然の博物館研究報告 第19号	600部	BFG
イベント展示案内（ミュージアムカレンダー） ①前期・②後期（年間イベント案内）	①100,000部 ② 30,000部	ABCDEFG
自然の博物館ニュースレター「瀬」 第43号、第44号	各900部	BFG
企画展「外来生物 in 埼玉！」 ① ポスター ②チラシ ③リーフレット	① 350部 ② 15,000部 ③ 7,000部	BCDEFG
企画展「長瀬自然遊覧」 ① ポスター ②チラシ ③パンフレット	① 400部 ② 15,000部 ③ 8,000部	ABCDEFG ABCDFG BCDE
川の博物館特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」 ①ポスター ②チラシ ③解説書 ※製作・配布は川の博物館	① 300部 ② 23,000部 ③ 700部	ABCDEFG
特別展「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」 ① ポスター ②チラシ ③展示解説書（図録）	① 350部 ② 15,000部 ③ 1,600部	BCDEFG

表2

A	県内小・中学校及び市町村教育委員会
B	県庁内関係各課、博物館、地域振興センター、図書館等の施設
C	長瀬町観光協会、長瀬町内各事業所（店舗、観光施設等）
D	県北地域の道の駅、宿泊施設、観光施設等
E	秩父鉄道、西武鉄道の各駅及び関連施設
F	市町村文化会館、公民館、図書館等の公共施設
G	県外博物館

そのほか、自然史講座や観察会のテキスト、展示解説リーフレット、自然の博物館利用ガイドンステキストなどを必要に応じて作成・印刷し、配布した。



ミュージアムカレンダー
(イベント案内)



ニュースレター「瀬」43号

(12) レファレンス

月	動物分野	植物分野	地質分野	その他	合計
令和6年4月	12	4	15	1	32
令和6年5月	18	6	17	2	43
令和6年6月	21	2	18	0	41
令和6年7月	8	1	5	1	15
令和6年8月	11	3	25	1	40
令和6年9月	11	4	8	3	26
令和6年10月	11	4	12	3	30
令和6年11月	11	1	8	0	19
令和6年12月	10	2	17	0	29
令和7年1月	3	0	10	1	14
令和7年2月	3	3	6	1	13
令和7年3月	8	0	13	1	22
合計	126	30	154	14	324

(13) 広報・広聴の推進

ア Web (ホームページ、X) での情報発信とアクセス数

特別展や企画展、各イベントに関する情報をはじめ、周辺で見られた季節の移り変わりの様子や出来事、関連施設や地域の情報などをホームページやXで情報を発信した。

	ホームページ		X	
	アクセス数	更新回数	ポスト数	インプレッション数※
令和6年4月	89,658	13	17	54,391
令和6年5月	87,435	13	19	54,958
令和6年6月	86,814	12	31	62,405
令和6年7月	122,783	14	22	50,377
令和6年8月	101,011	19	32	73,135
令和6年9月	93,658	13	20	40,995
令和6年10月	77,232	14	28	44,312
令和6年11月	149,719	28	34	73,557
令和6年12月	214,864	19	28	50,437
令和7年1月	259,910	20	22	57,190
令和7年2月	187,710	27	15	85,920
令和7年3月	74,903	13	22	104,890
合 計	1,545,697	205	290	752,567

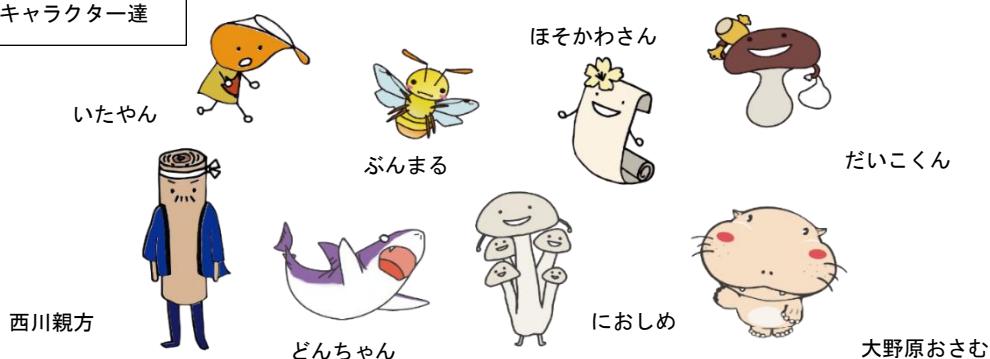
※ インプレッションとは、ポストが表示された回数を表す。

イ メディア等への情報提供

特別展・企画展や各イベント情報及び当館概要の提供先

種類	主な提供先
新聞 テレビ ラジオ	埼玉県政記者クラブ（埼玉新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞、東京新聞、日刊工業新聞、共同通信、時事通信、NHK、テレビ埼玉、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日）、埼玉中央よみうり、埼北よみうり、埼東よみうり、FM茶笛、ちちぶエフエム
web	○県関連サイト 生涯学習ステーション、みどりのポータルサイト ○その他各事業者運営サイト るるぶ、まっぷる、ナビタイムジャパン、イベントバンク、いこーよ、じやらん、ウォーカープラス
広報紙 機関紙 情報誌等	○地方自治体関係 彩の国だより、埼玉教育 ○その他各事業者 秩父鉄道広報紙「パレット」、なびまる、ちよこたび埼玉

当館のマスコットキャラクター達



4 資料収集整理事業

自然に関する資料を収集・整理・保管し、県民に供するため、次の事業を実施した。

また、自然と川の博物館管理規則により自然の博物館が行うこととされている川の博物館（指定管理者：乃村工藝社）の資料収集に関する業務を実施した。

(1) 資料の収集・整理

本年度に受け入れた資料は以下のとおり。

ア 寄贈資料

合計 3,564 点

番号	分野	資料名	点数	寄贈日
1	動物	無翅昆虫類プレパラート標本	1472 点	R7.3.21
2	動物	コオイムシ、マダラコガシラミズムシ標本	24 点	R7.3.19
3	動物	水生昆虫標本	42 点	R7.3.19
4	動物	レンズヒラマキ標本	12 点	R7.3.19
5	動物	アカモズ巣標本	3 点	R7.3.19
6	動物	カメムシ類の標本	301 点	R7.3.19
7	動物	秋ヶ瀬公園のカメムシ類標本	24 点	R7.3.19
8	動物	県内及び県外産希少トンボ類	64 点	R7.2.12
9	動物	ハイタカ本剥製	1 点	R6.7.17
10	植物	チョウセンミネバリさく葉標本	2 点	R7.2.13
11	植物	被子植物さく葉標本	425 点	R7.2.10
12	植物	裸子植物さく葉標本	6 点	R7.2.10
13	植物	シダ植物さく葉標本	59 点	R7.2.10
14	植物	飯能市立博物館ササ類標本	5 点	R6.8.1
15	植物	冬虫夏草乾燥標本	1 点	R6.8.1
16	植物	さく葉標本（ナガエミクリ等）	157 点	R6.7.19
17	植物	さく葉標本（シャジクモ）	1 点	R6.7.19
18	地質	比企丘陵産脊椎動物化石	945 点	R7.3.25
19	地質	秩父ヒスイ	1 点	R6.9.6
20	地質	有孔虫化石スライド	19 点	R6.7.22

イ 提供資料

合計 290 点

地質 6 件 84 点、植物 9 件 71 点、動物 32 件 135 点

※ 「提供資料」とは、同定や標本化等が必要となる未整理の状態で受け入れたもの。これらの資料は標本化していないものも含む。

ウ 川の博物館資料の収集

購入 1 件 1 点

(2) 資料の登録

ア 令和6年度新規登録資料				総計 3,874 点
(ア) 地質分野				
岩石(Ro)	1 点	脊椎動物化石(VeF)		945 点
鉱物(Mi)	1 点	化石スライド(OFS)		19 点
		合計		966 点
(イ) 動物分野				
鳥類(Av)	4 点	有翅昆虫(In)		707 点
軟体動物(Mo)	12 点	無翅昆虫(Ap)		1,472 点
		合計		2,195 点
(ウ) 植物分野				
被子植物(As)	643 点	シダ植物(Pt)		62 点
裸子植物(Gy)	6 点	藻類(Al)		1 点
菌類(Fu)	1 点			
		合計		713 点
イ 登録資料点数(令和6年度新規登録資料含む)				総計 201,751 点
(ア) 地質分野				
岩石(Ro)	1,437 点	化石	藻類化石(AlF)	113 点
岩石・鉱物スライド(RMS)	688 点		脊椎動物化石(VeF)	1,770 点
鉱物(Mi)	5,645 点		甲殻類化石(CrF)	327 点
地質構造標本(Gs)	40 点		昆虫化石(InF)	237 点
第四紀火山碎屑物(Qu)	42 点		無脊椎動物化石(MoF)	5,019 点
その他地質資料(OG)	649 点		その他の無脊椎動物化石(OIF)	792 点
ボーリング資料(Bo)	68 点		化石スライド(AFS、PFS、OFS)	1,684 点
化石　　植物化石(PlF)	2,430 点		生痕化石(TrF)	106 点
			菌類化石(FuF)	2 点
		合計		21,049 点
(イ) 動物分野				
脊椎動物　　哺乳類(Ma)	603 点	節足動物	クモ類(Ar)	19 点
鳥類(Av)	915 点		ダニ類(Ac)	27 点
爬虫類(Re)	156 点		その他の蛛形類 (Ad)	2 点
両生類(Am)	203 点		甲殻類(Cr)	111 点
魚類・円口類(Pi)	567 点		多足類(My)	22 点
昆虫類　　有翅昆虫類(In)	48,766 点	無脊椎動物	軟体動物(Mo)	1,977 点
無翅昆虫類(Ap)	40,889 点		その他の無脊椎動物(Iv)	26 点
		合計		94,283 点
(ウ) 植物分野				
種子植物　　被子植物(As)	63,497 点	菌類(Fu)		3,006 点

裸子植物 (Gy)	464 点	地衣類 (Li)	8,592 点
シダ植物 (Pt)	7,351 点	藻類 (Al)	45 点
コケ植物 (Br)	3,161 点	植物スライド (P1S)	303 点
合計			86,419 点

(3) 資料管理

ア IPMに基づいた環境調査

館内 39 か所に捕虫器を仕掛け、毎月 1 回（月末）に回収、捕獲したものの中から資料に影響を及ぼす可能性のある昆虫を確認し、それに基づく環境管理を行なった。

館内外 12 か所にデータロガーを設置し、毎月 1 回（月末）、1か月分の温湿度データを確認し、それに基づく環境調査を行なった。

イ 収蔵資料点検

館有資料所在点検実施計画に基づき、本年度に確認した館有資料は以下のとおり。

39 回 合計 26,055 点

分 野	照合点数	実施回数
動 物	4,545 点	9 回
植 物	21,390 点	26 回
地 質	120 点	4 回

(4) 資料の活用

ア 資料の特別利用

件数 31 件 点数 708 点

イ 資料の館外貸出

件数 8 件 点数 126 点

ウ 資料の展示活用

(ア) 館内での活用	合計 7,549 点
(内訳) 常設展	1,411 点
企画展「入間川流域の自然遺産調査から見えたこと」	5,164 点
企画展「外来生物 in 埼玉！」	418 点
企画展「長瀬自然遊覧」	389 点
特別展「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」	138 点
トピック展「生痕化石の世界」	9 点
トピック展「標本制作の技（動物編）」	11 点
トピック展「埼玉の森をつくる木たち」	9 点

(イ) 館外での活用	合計 543 点
(内訳) 特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」	197 点
(企画：自然の博物館、実施・運営：川の博物館)	
寄居町立小学校巡回展（I 期・II 期）	52 点
(共催：寄居町教育委員会)	
共催展「第 15 回自然科学展～さいたまの動物たち」	294 点
(共催：熊谷市立熊谷図書館)	

(5) 資料のデジタルアーカイブ化

ア 資料の画像台帳への登録

1,000 点

(6) インターネットを通じての資料の公開

ア 当館ホームページでの公開

資料の一部を画像として当館ホームページに公開している。

(ア) ベストコレクション 10 点

(イ) 分野別資料 67 点 (動物 25 点、植物 22 点、地質 20 点)

(ウ) 古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群 9 点

(エ) 古秩父湾の化石 23 点

(オ) 埼玉の外来生物 38 点

イ 生物多様性標本情報データベースへの情報提供

提供件数 (累積) 108,700 件

全国の自然系博物館及び大学の収蔵標本情報を検索することができる「サイエンスミュージアムネット」に登録資料の情報を提供している。

(7) 図書資料の収集・整理と活用

資料収集活動の一環として、自然史分野に関係した図書資料を収集。多くは当館刊行物との交換によるもの。

ア 図書資料の収集・整理

129 冊 (文献交換によるもの含む)

イ 文献交換状況

当館の研究報告・資料目録・展示図録・ニュースレターと、国内外の博物館、大学研究所などの文献と交換を行っている。

(交換先) 国内 298 か所、国外 20 か所

(8) 自然の博物館評議会議資料評価部会委員名簿 (令和 6・7 年度) (敬称略)

氏名	役職
松原 聰	国立科学博物館名誉館員・名誉研究員
清水 晃	東京都立大学客員研究員／(財)進化生物学研究所客員研究員
染川 香澄	ハンズ・オン プランニング代表
木場 英久	元桜美林大学教授

5 調査研究事業

(1) 組織的に行う総合研究

ア 自然遺産基礎調査「長瀬自然遺産調査」

令和6年度からの5か年計画の1年目として調査を開始した。

イ 特別天然記念物カモシカ保護対策事業（特別調査）

カモシカ保護地域における生息環境・生息状況・食害状況に関する調査を行い、カモシカ保護管理の基礎資料を得た。特別調査2か年中の1年目。

（期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日）

(2) 職員が総合研究テーマに基づき個人テーマを設定して行う調査研究

- 岩田 明広 利根川中流域の地形分類及び考古学調査からの流路復元
- 井上 素子 県内の災害史研究（天明泥流を中心に）
- 小林 まさ代 秩父鉱山産鉱物の記録と国内スカルン鉱床における位置づけの検討
- 奥村 みほ子 埼玉県内における哺乳類の生息状況の解明
- 半田 宏伸 ① 埼玉県内のセイボウ上科ハチ類の分布と不明種の調査
② 埼玉県内的人工的な環境下におけるハチ類の種構成調査
- 山岡 勇太 山中白亜系産二枚貝化石の記載および古生態学的研究
- 本多 里奈 ① コロニ一性鳥類の生息状況調査
② 博物館周辺の鳥類生息状況
- 岩浪 創 飯能市における暖地性植物の分布状況の解明
- 高橋 美織 秩父鉱山と秩父トーナル岩体について

(3) 研究成果の公表

ア 当館が発行した刊行物

(ア) 埼玉県立自然の博物館研究報告 第19号（ゴシック体：当館職員）

原著論文3件、短報7件、資料4件を掲載。

○原著論文

- ・埼玉県比企丘陵東部と吉見丘陵南西部の中新統の珪藻化石年代
原田吉樹・柳沢幸夫・荒井 豊 1-20

- ・東松山市化石と自然の体験館所蔵のパレオパラドキシア化石
原田吉樹・北川博道・荒井 豊 21-32

- ・埼玉県立自然の博物館の外壁に見られるハチ類の種構成と特徴
半田宏伸 33-50

○短 報

- ・2024年に加須市で採集されたタガメについて
荒井康充・半田宏伸 51-54

- ・埼玉県におけるコオイムシの新規産地および既知記録の整理
高野季樹・内田大貴・古旗嶽一・佐藤日向・岩田泰幸 55-60

- ・埼玉県におけるマダラコガシラミズムシの新規産地および既知記録の整理
高野季樹・内山龍人・古旗嶽一・内田大貴・阿部眞大・岩田泰幸 61-66

- ・埼玉県におけるレンズヒラマキ（腹足綱：モノアラガイ目：ヒラマキガイ科）の初記録
内田大貴・福田 宏 67-70

- ・春期の農作業中の水田で観察されたムナグロの夜間の採食行動
渡辺朝一 71-74

- ・埼玉県におけるオオコノハズクの確実な繁殖記録
野原 清・本多里奈 75-78

・埼玉県におけるユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* の再発見

大沢啓子・大沢夕志 79-81

○資料

- ・令和5年度講演会「巨大ザメ“メガロドン”研究最前線！～県指定天然記念物のメガロドン化石からわかったこと～」開催報告 山岡勇太 83-88
- ・埼玉県伊奈町の都市近郊施設における植物目録 岡本知実・飯田作穂・手塚征守 89-94
- ・さいたま市秋ヶ瀬公園の陸生カメムシ類（昆虫綱：カメムシ目） 奥田恭介 95-108
- ・埼玉県の台地・丘陵帯におけるミゾゴイの営巣環境 高橋佑亮・内田 博 109-112

(イ) ニュースレター「瀬」

○ 43号

- ・令和6年度企画展「外来生物 in 埼玉！」展示案内と見どころの紹介 本多 里奈 2-3
- ・古秩父湾 Instagram フォト&書コンテストを開催しました！ 山岡 勇太 4
- ・県立大宮工業高校との共同製作ーカエデの森に「ハチの家」を設置しました！ 半田 宏伸 5
- ・新任学芸員からのご挨拶 岩浪 創 6
- ・長瀬と自然の博物館ー「長瀬」天然記念物指定100周年の今 小柴 あかり 7
- ・表紙解説・展示のお知らせ（10月～3月） 8

○ 44号

- ・名勝・天然記念物「長瀬」100周年記念 令和6年度企画展「長瀬自然遊覧」展示内容の紹介 山岡 勇太 2-3
- ・令和6年度特別展「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群～」の開催 小林 まさ代 4-5
- ・名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念事業について 加藤 浩一 6
- ・「寄居町立小学校巡回企画展～生物の不思議を大発見～」を開催して 横田 淳 7
- ・コラム・展示のお知らせ（4月～9月）・表紙解説 8

(ウ) 令和6年度研究発表会資料集（通算第29回）

熊谷市立熊谷図書館で行った研究発表会の資料をまとめたもの。（ゴシック体：当館職員）

- ・飯能市周辺で確認した県内新産の維管束植物について 岩浪 創
- ・"落とし物"から見るアオバズクの生態 本多 里奈
- ・小鹿野町から産出した山中白亜系の二枚貝化石 山岡 勇太
- ・岐阜県瑞浪市産出パレオパラドキシア全身骨格の産状と秩父産標本との比較 北川 博道

- ・皆野町におけるデュープレックス構造の形態的視点からみた他地域との比較」 長谷河 初男・閑根 一昭

- ・埼玉県東部低地における主な湿地及び浮野とムジナモ自生地の現状報告 三上 忠仁

(エ) 特別展「秩父鉱山の面影～ニッチツが所蔵した希代の鉱物標本群」展示解説書

小林 まさ代

(オ) 特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」展示解説書

北川 博道

イ 個人論報文・発表

学芸職員による 20 件の論報文の公表、学会等での発表を行った。

○ 井上 素子

- Preliminary study on pedological feature of fluvial soils in Miyakojima (Honjyo city), right side of Tone River, referring to the history of floods and land use.
第 7 回国際土壤分類会議. (ポスター発表／連名)

○ 北川 博道

- 化石研究と文化財 2-古秩父湾の取り組み - . 日本古生物学会 2024 年年会. (口頭発表／筆頭・連名)
- 瑞浪層群宿洞層産パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本の研究. 日本古生物学会 2024 年年会 (ポスター発表／連名)

○ 木山 加奈子

- 『自然とともに生きる森林教育学』, 海青社, 2024, 361p. (分担執筆)
- 『埼玉県レッドデータブック植物編(第 4 版) 2024』, 埼玉県環境科学国際センター, 2025, (分担執筆)

○ 半田 宏伸

- First record and host identification of *Echthrodelphax rufus* Olmi, 1984 in Japan (Hymenoptera: Dryinidae), *Journal of Insect Biodiversity*, 54(2) :58–60. Magnolia Press, 10.12976/jib/2024.54.2.4. (共著・主著)
- エサキアシブトハバチ *Agenocimbex esakii* Takeuchi, 1939 の採集及び 撮影の記録, すぐれおい, (6) :1-3. (共著・主著)
- 寄居町, 長瀬町におけるムネアカハラビロカマキリの採集記録, 寄せ蛾記, (191) :57-58.
- 埼玉県内で絶滅が危惧されるハチ類の 5 種の記録, すぐれおい, (5) :119-121.
- ホシツヤセイボウの産卵行動の観察, すぐれおい, (5) :80-82.

○ 山岡 勇太

- Notice of formal repository of the remaining teeth of an associated fossil specimen of the megatooth shark, *Otodus megalodon* (Lamniformes: Otodontidae), to the Saitama Museum of Natural History, Japan. *Historical Biology*, 37: 154–155. (連名)
- Systematics, Paleoecology and Taphonomy of a New *Pseudovertagus* (Cerithiidae; Caenogastropoda; Mollusca) from the Upper Pliocene of Japan, *Paleontological Research*, 28(4): 519–531. (連名)
- 現生種二枚貝とその祖先種の比較研究:タマキガイとトリガイの事例. 日本古生物学会 2024 年年会. (口頭発表)
- 化石研究と文化財 2-古秩父湾の取り組み - . 日本古生物学会 2024 年年会. (口頭発表／連名)
- ジオパーク拠点施設が行う化石を用いた教育普及活動 ~埼玉県立自然の博物館の事例~. 日本古生物学会第 174 回例会.
- ジオパーク秩父におけるサステナブルツーリズム観光コンテンツ強化事業の実施について. 第 14 回日本ジオパーク全国大会. (連名)

○ 本多里奈

- タイムラプスカメラを用いたウミウの繁殖生態の基礎研究. 日本鳥学会 2024 年度大会 (ポスター発表／連名・筆頭)

- ・ 野生動物×「学」. 学生と社会人を繋ぐ自由集会. 第30回日本野生動物医学会大会（話題提供／連名）
- 岩浪 創
- ・『埼玉県レッドデータブック植物編（第4版）2024』, 埼玉県環境科学国際センター, 2025, 558p.
(分担執筆)
 - ・ 駿河台大学構内における植物目録, 駿河台大学地域研究, (6):1-19. (共著)

(4) 外部研究者

ア 外部研究者の受け入れ

令和6年度に受け入れた外部研究者は以下の31名。

	氏名	テーマ	分野	担当
1	石井 克彦	・ヒメガロアムシの分布域の調査 ・埼玉県に侵入した外来生物について ・ナガレタゴガエルの分布調査 ・ムササビの分布調査	動物	本多
2	岩田 泰幸	埼玉県における水生昆虫類の生態及び分布に係わる研究（継続）	動物	本多
3	碓井 徹	埼玉県におけるムネアカハラビロカマキリの分布拡大の様相 その2	動物	本多
4	内田 大貴	埼玉県産水生生物分布調査－博物館標本の整理と現地調査による知見の蓄積－	動物	本多
5	大堀 里奈	埼玉県におけるげっ歯類の生息について	動物	本多
6	奥田 恭介	埼玉県におけるカメムシ目昆虫相の研究	動物	本多
7	金子 陽子	花粉分析による古環境の復元	地質	山岡
8	小林 健助	花粉化石の研究	地質	山岡
9	佐藤 清	日高市におけるシダの生育状況等に関する調査研究	植物	木山
10	佐藤 健	埼玉県内における緩歩動物門クマムシの生息に関する分布状況の研究	動物	本多
11	鈴木 幸枝	赤城花ノ原東方湿原（仮称）のボーリングコアの花粉分析による古環境の復元	地質	山岡
12	須田 大樹	埼玉県内の植物相・植物分布に関する研究	植物	木山
13	清家 一馬	放射年代を用いた地域的な埋没隆起の復元・古生物相の研究	地質	山岡
14	関根 一昭	埼玉県秩父市および皆野町に分布する秩父帯の付加体にみられる変形構造および角礫岩に関する地質学的研究	地質	山岡
15	曾根崎 猛史	埼玉県におけるハチ類の生息状況	動物	本多
16	平 誠	・陸水プランクトンおよび大型鰓脚類の分布や生態	植物	木山

		・埼玉県内の植物分布や植物の生活史		
17	高野 季樹	埼玉県における魚類および水生甲虫目・半翅目を主とした水生生物の生息状況および生態に関する研究	動物	本多
18	鐵 慎太朗	埼玉県と岡山県の維管束植物相の比較を目的とした植物相調査	植物	木山
19	中村 修美	カマアシムシ類の分類と生物地理	動物	本多
20	榆井 尊	関東内陸部における第四系の古環境と古気候変動に関する研究	地質	山岡
21	野澤 雅美	埼玉県のカメムシ目昆虫に関する研究－主にカスミカメムシ類・キジラミ類を中心として－	動物	本多
22	長谷河 初男	埼玉県秩父地域に分布する秩父帶の付加体にみられる変形構造および角礫岩に関する地質学的研究	地質	山岡
23	古旗 峻一	文献および標本資料から明らかにする埼玉県の魚類相	動物	本多
24	逸見 紀章	展示や教材として使用するための標本の作製	動物	本多
25	本間 岳史	・板碑の石材およびその採掘地等に関する研究 ・長瀬の地質および研究史等に関する研究 ・ジオパークに関する研究	地質	山岡
26	牧野 彰吾	埼玉県内の維管束植物の動向について	植物	木山
27	町田 和彦	哺乳類の生態及び分類の研究－特にコウモリ類を対象に－	動物	本多
28	松本 充夫	日本産陸・淡水産貝類の分類学的研究	動物	本多
29	三上 忠仁	埼玉県絶滅危惧種調査、外来植物調査、加須市浮野調査、羽生市ムジナモ自生地調査他	植物	木山
30	三村 昌史	埼玉県内における地域植物誌の解明および分類学的再検討	植物	木山
31	川上 高平	熊本県と埼玉県に分布する下部白亜系堆積物の後背地に関する比較	地質	山岡

イ 外部研究者による研究実績の公表（2025年2月末現在）

○ 岩田 泰幸

Masakazu Hayashi, Yasuyuki Iwata, Hiroyuki Yoshitomi, 2024. *Ochthebius lobatus* Pu, 1958 from Japan (Coleoptera: Hydraenidae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 30(2) : 333-335.

林成多, 相馬理央, 岩田泰幸, 2024. 島根県産水生食肉亜目の DNA バーコード領域. ホシザキグリーン財団 研究報告特別号 (34) : 1-20.

林成多, 相馬理央, 岩田泰幸, 上手雄, 2024. 島根県産水生甲虫類の DNA バーコード領域. ホシザキグリーン財団 研究報告特別号 (34) : 75-98.

林成多, 相馬理央, 岩田泰幸, 渡部晃平, 上手雄貴, 吉富博之, 2024. 日本産ダルマガムシ科の DNA バーコード領域 II. ホシザキグリーン財団 研究報告特別号 (34) : 51-62.

岩田泰幸, 2024. 文化財用燻蒸剤の動向とその変化に伴う生物被害対策の再考について. 博物館研究 59(6) : 24-25.

岩田泰幸, 2024. 文化財用燻蒸剤の変容に伴う生物被害対策の再考とその立案の考え方について.

- 文化財の虫菌害 (87) : 16-21.
- 岩田泰幸, 2024. 文化財虫菌害防除薬剤の特徴と選定に際しての注意点. 博物館研究 59(10) : 29-31.
- 岩田泰幸, 板倉拓人, 2024. 埼玉県小鹿野町におけるサワダマメゲンゴロウの記録. 寄せ蛾記 (191) : 25-26.
- 加藤敦史, 澤田研太, 岩田朋文, 岩田泰幸, 2024. 新潟県および富山県におけるアサヒナコマルガムシの初記録. さやばねニューシリーズ (56) : 46-47.
- 高野季樹, 内田大貴, 古旗峻一, 佐藤日向, 岩田泰幸, 2025. 埼玉県におけるコオイムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告 (19) : 55-60 (2025年3月発行予定).
- 高野季樹, 内山龍人, 古旗峻一, 内田大貴, 阿部眞大, 岩田泰幸, 2025. 埼玉県におけるマダラコガシラミズムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告 (19) : 61-66 (2025年3月発行予定).
- 内田大貴, 阿部眞大, 岩田泰幸, 2024. 冬季の陸上で得られたエサキナガレカタビロアメンボ. 月刊むし (642) : 52-53.
- 内田大貴, 古旗峻一, 岩田泰幸, 2024. 桶川市で採集されたマダラケシカタビロアメンボの記録. 寄せ蛾記 (192) : 10-11.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 2024. カスリケシカタビロアメンボ (カメムシ目, カタビロアメンボ科) の北限および新潟県初記録. 昆蟲ニューシリーズ 27(2) : 87-89.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 2024. エサキナガレカタビロアメンボ *Pseudovelia esakii* Miyamoto, 1959 (カタビロアメンボ科 Veliidae) の新潟県初記録と生息環境に関する知見. 伊豆沼・内沼研究報告 18 : 63-70.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 2024. 埼玉県におけるコオナガミズスマシの追加記録と既知記録の整理. 寄せ蛾記 (191) : 68-71.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 古旗峻一, 菓島悠介, 2024. 埼玉県におけるチビマルガムシの初記録. さやばねニューシリーズ (56) : 54-55.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 岩田朋文, 2024. 埼玉県におけるチビミズムシ亜科 (ミズムシ科) の追加記録と既知記録の整理. 寄せ蛾記 (191) : 13-16.
- 内田大貴, 岩田泰幸, 高野季樹, 内山龍人, 2024. 鳩山町における水生コウチュウ目・カメムシ目の追加記録一付 鳩山町の水生コウチュウ目・カメムシ目リスト. 寄せ蛾記 (192) : 67-69.
- 山崎駿, 内田大貴, 岩田泰幸, 2024. エサキナガレカタビロアメンボ (カメムシ目, カタビロアメンボ科) の大分県および山梨県からの初記録. 昆蟲. ニューシリーズ 27(3) : 122-124.
- 【書籍】**
- 岩田泰幸, 2025. 第3章・第4章 (分担執筆). 文化財の虫菌害防除と安全の知識. pp. 31 - 51. 文化財虫菌害研究所発行.
- 【口頭発表 (講師含む)】**
- 岩田泰幸, 2024. 文化財用燻蒸剤の動向と生物被害対策の再考について. (第46回文化財の虫菌害・保存対策研修会: 講師).
- 岩田泰幸, 2024. 文化財燻蒸剤の現状と生物被害対策の再考について (追補版). (第44回文化財防虫防菌処理実務講習会: 講師).
- 岩田泰幸, 2024. 文化財の保存環境管理の今とこれから~文化財用燻蒸剤の変容を受けて~. (令和6年度関東地区博物館協会第2回研究会: 講師).
- 岩田泰幸, 2024. 防除処理に関する基礎知識. (第13回文化財IPMコーディネータ資格取得講習会: 講師).
- 岩田泰幸, 山崎駿, 内田大貴, 高野雄一, 佐藤日向, 2024. 松之山付近の止水性水生甲虫について. (第14回つまり市民里山学会: 口頭発表).
- 岩田泰幸, 2025. 文化財用燻蒸剤の現状と生物被害対策の再考について. (令和6年度宮崎県立美術館学芸担当職員研修会: 講師).
- 岩田泰幸, 2025. 美術館運営に係わるIPMの基礎およびすみだ北斎美術館での実践について. (すみだ北斎美術館職員を対象としたIPM研修: 講師).
- 岩田泰幸, 2025. 文化財IPMを推進する上で有用な資格および生物被害対策への生かし方. (フォーラム: ポスト・エキヒュームSの資料保存を考える: 講師).
- 岩田泰幸, 2025. ①文化財分野における生物被害の予防対策, ②殺虫・殺菌処理等の駆除対策. (第46回文化財の虫菌害防除作業に関する講習会: 講師).
- 碓井 徹
碓井徹, 2024. 埼玉県のツヤハダゴマダラカミキリに関する追加情報. 寄せ蛾記, (192) : 12-13.
碓井徹, 2024. 今年度も埼玉県の希少種調査にご協力ください. 寄せ蛾記, (192) : 69.
碓井徹, 2024. 音楽の中の虫たち (16) [梁山伯と祝英台] -松本和馬君を偲んで-. 寄せ蛾記, 投稿中 (2025年3月発行予定).

- 碓井徹, 2024. 『エコ散歩のすすめ』分担執筆. いろいろ生きものネット埼玉 刊 (分担執筆)
- 碓井徹, 2024. 『外来植物ポケットブック+増補改訂第4版』分担執筆. いろいろ生きもののネット埼玉 投稿中 (2025年3月発行予定) (分担執筆)
- 碓井徹, 2024. 上尾市自然学習館 指導員研修 講師 (4回)
- 内田 大貴
内田大貴・岩田泰幸・荒井康充, 2025. 羽生水郷公園で確認された湿地性昆虫類 (コウチュウ目・カメムシ目). 川博紀要, 印刷中.
 - 内田大貴・福田 宏, 2025. 埼玉県におけるレンズヒラマキ (腹足綱: モノアラガイ目: ヒラマキガイ科) の初記録. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 印刷中.
 - 高野季樹・内山龍人・古旗峻一・内田大貴・阿部眞大・岩田泰幸, 2025. 埼玉県におけるマダラコガシラミズムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 印刷中.
 - 高野季樹・内田大貴・古旗峻一・佐藤日向・岩田泰幸, 2025. 埼玉県におけるコオイムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 印刷中.
 - 茶珍護・内田大貴, 2025. 群馬県におけるマダラコガシラミズムシ (コウチュウ目: コガシラミズムシ科) の追加記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, 印刷中.
 - 古旗峻一・高野季樹・内田大貴, 2024. 埼玉県利根川水系におけるシマヨシノボリの標本に基づく記録. Ichthy, 42: 5-8.
 - 山崎駿・内田大貴・岩田泰幸, 2024. エサキナガレカタビロアメンボ (カメムシ目, カタビロアメンボ科) の大分県および山梨県からの初記録. 昆虫ニューシリーズ, 27(3): 122-124.
 - 内田大貴・岩田泰幸・相蘇巧, 2024. サンゴカメムシの分布北限記録の更新を伴う伊豆大島からの発見. 昆虫ニューシリーズ, 27(1): 45-47.
 - 内田大貴・岩田泰幸, 2024. カスリケシカタビロアメンボ (カメムシ目, カタビロアメンボ科) の北限および新潟県初記録. 昆虫ニューシリーズ, 27(2): 87-89.
 - 内田大貴, 2024. ココがスゴいゾ! 鳥類園の水生昆虫. (講演)
 - 内田大貴・高野季樹, 2024. 東京湾沿岸部湿地における真水生昆虫類の多様性について ~コウチュウ目 (口頭発表)
- 奥田 恭介
Kyosuke Okuda, Akihiro Yoshikawa, & Tadashi Ishikawa, 2024. *Pygolampis amamiko* (Hemiptera: Heteroptera: Reduviidae), a new assassin bug species from the Amami Islands, Japan. Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae 64 (1): 213-271.
 - 奥田恭介, 2024. さいたま市秋ヶ瀬公園の陸生カメムシ類 (昆虫綱: カメムシ目). 埼玉県立自然の博物館研究報告 (19): 95-108. ※ 年度内出版予定
 - 奥田恭介, 2024. 国内におけるトビイロサシガメ亜科 2種の新産地: *Rostria* (69): 99-100.
 - 奥田恭介, 2024. 埼玉県から新たに記録されるカメムシ類 (4): 寄せ蛾記 (192): 1-4.
 - 奥田恭介, 2024. 埼玉県南東部において記録の少ないカメムシ亜目 2種の採集記録: 寄せ蛾記 (192): 60.
 - 奥田恭介, 2024. モモブトホソサシガメ *Sastrapada robustoides* Putshkov, 1987 (カメムシ目, サシガメ科) の西表島からの初記録. Fauna Ryukyuana (69): 1-2.
 - 奥田恭介, 2024. 働きながら研究をする. 文化財の虫菌害 88: 26-30.
 - 奥田恭介, 2024. 働きながら昆虫を研究する. 日本昆虫協会ニュースレター85: 24-27.
 - 奥田恭介, 2024. 日本産サシガメ科 最近の話題. 日本昆虫分類学会第27回大会.
 - 渡邊智也・萩野航・奥田恭介, 2024. ヒメトビサシガメの水辺への適応における収斂進化. サイエンスカンファレンス 2024
- 金子 陽子
榆井尊・鈴木幸枝, 2024. 赤城覚満淵湿原の花粉分析. 良好的な自然環境を有する地域学術報告書第50号: 136-146 (協力)
 - 小林 健助
小林健助, 2024. 関東平野西縁、下部更新統仏子層のラビンメント面から見出された4タイプの *Gastrochaenolites* とそれらの形成者. 地球科学, 第78巻, 第4号.
 - 佐藤 健
塚本俊太・七戸蒼天・佐藤健, 2024. 川越高校産クマムシの形態観察及び遺伝的同定. 日本動物学会第76回関東支部大会. (ポスター発表)
 - 小田智慶・武井煌太・池田和隆・師岡大輝・師岡勇輝・佐藤健, 2025. 2. ~埼玉県の魚ヘムサントミヨのミトコンドリア DNA (Cytochrome-b, D-loop) からみたトゲウオ科トミヨ属の系統樹作成. 埼玉県高等学校理科教育発表会. (ポスター発表)
 - 鈴木 幸枝
榆井 尊・鈴木幸枝, 2024. 赤城覚満淵湿原の花粉分析. 良好的な自然環境を有する地域学術報告書第50号: 136-146
 - 須田 大樹

- 須田大樹・島井誠司, 2025. 希少な植物群落. 埼玉県レッドデータブック植物編（第4版）2024
埼玉県の希少野生生物：353-465.
- 須田大樹, 2025. 天然記念物の指定状況. 埼玉県レッドデータブック植物編（第4版）2024 埼玉県の希少野生生物：500-503.
- 須田大樹, 2024. 林泉寺 天井画の植物について. 木村惠隆・木村立枝纂修, 増林林泉寺 本堂 内陣天井画, 214-229.
- 須田大樹, 2024. 巨樹・巨木林から見る埼玉の自然環境～木を見て森を見る～. 講演会「巨樹を楽しむ」, 特別展「自然の“国宝”展～天然記念物からみた埼玉の自然～」関連事業. (口頭発表)
- 清家 一馬
浦本豪一郎・中村璃子・朝山航大・壹岐一也・清家一馬・多田井修・濱田洋平・谷川亘・廣瀬丈洋, 2024(in press). 土佐硯の石材評価：鉱物単体分離解析 (MLA) による鉱物・粒度特性の検討. 堆積学研究.
 - 関根 一昭
長谷河初男・関根一昭, 2024. 皆野町の水潜寺沢におけるデュープレックス構造の形態的視点からみた他地域との比較. 埼玉県立自然の博物館研究発表会. (口頭発表)
 - 曽根崎 猛史
曾根崎猛史・半田宏伸, 2024. 「令和6年度 県内希少野生動植物種」動物種選定調査 (ハチ目報告書). 埼玉県みどり自然課, (非公開)
中川大樹・曾根崎猛史・中村達郎, 2025. 春季現地調査会動物調査報告 (昆虫類) 嵐山渓谷周辺 昆虫調査リスト. 埼玉生物, 65, (投稿中 3月刊行予定)
中川大樹・曾根崎猛史・中村達郎, 2025. 春季現地調査会動物調査報告 (昆虫類) 山梨県西沢渓谷周辺 昆虫調査リスト. 埼玉生物, 65, (投稿中 3月刊行予定)
 - 平 誠
平 誠, 2024. 令和6年度「県内希少野生動植物種」植物種選定調査報告書. NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団. (共著)
平 誠, 2024. 埼玉県レッドデータブック 2024 植物編. 埼玉県. (共著：出版予定)
 - 高野 季樹
古旗嶺一, 高野季樹, 内田大貴, 2024. 埼玉県利根川水系におけるシマヨシノボリの標本に基づく記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 42: 5-8.
内田大貴, 中野彰人, 古旗嶺一, 高野季樹, 德平拓朗, 2024. 淀川水系高時川(長浜市)で採集されたナベヅタムシ長翅型. 淡海生物 6: 22-23.
高野季樹, 内田大貴, 小和田侑希, 2024. 東京都におけるカスリケシカタビロアメンボの記録. 月刊むし (648) : 52-53.
内田大貴, 高野季樹, 上手雄貴, 上手奈美, 中野彰人, 2024. 岐阜県恵那市における水生カメムシ類の追加記録 ならびに既知記録の整理. 佳香蝶 76(300): 128-134.
内山龍人, 高野季樹, 谷野彩奈, 國分直人, 大宮悠, 内田大貴, 2024. 筑波研究学園都市の遊水地で確認された水生昆虫類. るりぼし (55): 58-64.
内田大貴, 高野季樹, 吉田祐一, 2024. 葛西臨海公園(東京都江戸川区)におけるミズギワカヌムシの記録. うすばしろ (73): 4-5.
内田大貴, 高野季樹, 古旗嶺一, 依田剛明, 勢井慎太郎, 2024. 東京都大田区で確認された真正水生昆虫類(コウチュウ目・カメムシ目)の記録. うすばしろ (73): 13-15.
内田大貴, 岩田泰幸, 高野季樹, 内山龍人, 2024. 鳩山町における水生コウチュウ目・カメムシ目の追加記録-付 鳩山町の水生コウチュウ目・カメムシ目リスト-. 寄せ蛾記 (192): 67-69.
内田大貴, 菅谷和希, 高野季樹, 2024. 香取市におけるミヤタケダルマガムシの記録. 房総の昆虫 (74): 85-86.
内田大貴, 古旗嶺一, 高野季樹, 2024. 2023年に松伏町で確認した水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記 (191): 10-12.
高野季樹, 内田大貴, 2024. 2023年に幸手市で採集した水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記 (191): 64-67.
 - 中村 修美
Nakamura, O. 2024. A new species of the genus *Pseudanisentomon* (Protura: Eosentomidae) from Kagoshima, southern Japan. Edaphologia, (115): 77-82.
中村修美, 2024. カマアシムシ目(原尾目) Order Protura. 茨城陸生無脊椎動物研究会(編) 茨城県昆虫目録, pp. 19-20. ミュージアムパーク茨城県自然博物館
 - 榆井 尊
Haruka Nakayama, Ranko Takada, Takashi Miyake, Takashi Nirei & Hitoshi Sakio. 2024. Floral deception in dioecious *Actinidia polygama* (Actinidiaceae) revealed by differential nitrogen investment in male organs. PLANT SPECIES BIOLOGY Vol.39 Issue 5: 249-259.

- 野澤 雅美
 野澤雅美, 2024, 埼玉県から新たに記録されるカメムシ類 (4). 寄せ蛾記(192) : 1-4.
 野澤雅美, 2024, アオバハゴロモ科 (カメムシ目) の外来種について, 埼玉県における新たな記録 その和名に関する一考察. 寄せ蛾記 (投稿中)
 野澤雅美, 2024, 秩父市と寄居町でイネカメムシを記録. 寄せ蛾記 (投稿中)
 野澤雅美, 2024, 埼玉県で発見された注目すべきカメムシ類. 埼玉県立自然の博物館友の会 交流会 (口頭発表)
- 長谷河 初男
 長谷河初男・関根一昭, 2024, 皆野町の水潜寺沢におけるデュープレックス構造の形態的視点からみた他地域との比較. 埼玉県立自然の博物館研究発表会 (口頭発表)
- 古旗 峻一
 古旗峻一・高野季樹・内田大貴, 2024. 埼玉県利根川水系におけるシマヨシノボリの標本に基づく記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 42: 5-8.
 内田大貴・古旗峻一・高野季樹, 2024. 2023年に松伏町で確認した水生コウチュウ目・カメムシ目. 寄せ蛾記, (191): 10-12.
 内田大貴・古旗峻一・岩田泰幸, 2024. 桶川市で採集されたマダラケシカタビロアメンボの記録. 寄せ蛾記, (192): 10-11.
 古旗峻一・勢井慎太郎・山川宇宙・林 達也・内田大貴, 2024. 青梅市平溝川源流域で確認されたマルミズムシ・シマアメンボの記録. うすばしろ, (73): 17-18.
 内田大貴・高野季樹・古旗峻一・依田剛明・勢井慎太郎, 2024. 東京都大田区で確認された真水生昆虫類 (コウチュウ目・カメムシ目) の記録. うすばしろ, (73): 13-14.
 古旗峻一・内田大貴・中野彰人, 2024. 個人宅に保管されていた1950-1960年代の絶滅危惧種を含む鱗翅目コレクション. ニッヂェ・ライフ, (12): 124-129.
 Furuhata, R., Yamada, I., Konno, S., Tomita, K., Uchida, D. & Watanabe K., 2024. A New Distributional Record of *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1860 (Coleoptera, Dytiscidae) from Tsushima Island, Japan. Elytra, New Series, 14(2): 249-250.
- 内田大貴・岩田泰幸・古旗峻一・蓑島悠介, 2024. 埼玉県におけるチビマルガムシの記録. さやばねニューシリーズ, (56): 54-55.
- 高野季樹・内田大貴・古旗峻一・佐藤日向・岩田泰幸, 2024. 埼玉県におけるコオイムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告, (印刷中).
- 高野季樹・内山龍人・古旗峻一・内田大貴・阿部眞大・岩田泰幸, 2024. 埼玉県におけるマダラコガシラミズムシの新規産地および既知記録の整理. 埼玉県立自然の博物館研究報告, (印刷中).
- 内田大貴・中野彰人・古旗峻一・高野季樹・徳平拓朗, 2024. 淀川水系高時川(長浜市)で採集されたナベブタムシ長翅型. 淡海生物, (印刷中).
- 本間 岳史
 本間岳史, 2024. 特別天然記念物「御嶽の鏡岩」と周辺の地質. 野外調査研究, (8) : 39-50, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 令和5年度の野外研の活動. 野外調査研究, (8) : 51, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 野外見学会-2「紅葉の長瀬岩畳と自然の博物館」の報告. 野外調査研究, (8) : 58-59, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 「さいたま市民活動ポートセンターフェスティバル」と「浦和コミセンまつり」への参加報告. 野外調査研究, (8) : 73-75, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 本の紹介『3.11 大津波の対策を邪魔した男たち』. 野外調査研究, (8) : 182, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年にむけて. 野外調査研究, (8) : 183-184, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. ユネスコが18の世界ジオパークを新設. 野外調査研究, (8) : 185-186, 野外調査研究会.
 本間岳史, 2024. 本の紹介『秋川の石図鑑』・『多摩のあゆみ』, (195) : 98-99, たましん文化財団.
 本間岳史, 2024. 第78回地団研つくば総会「団研写真展」の報告. 地団研埼玉支部報, (261) : 4.
 本間岳史, 2024. 『長瀬探索ガイド』. 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念事業実行委員会, 8p.
 本間岳史, 2024. 小倉城跡石材調査報告 (投稿中). ときがわ町教育委員会.
 本間岳史, 2024. 画家・福沢一郎と『秩父山塊』(講演). 野外研講座-3, さいたま市立岸町公民館. 講演要旨, 6p.
 本間岳史, 2024. 地球の窓「長瀬」を探る (講演・現地見学). 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念特別講座 (第1回) 見学資料, 12p.
 本間岳史, 2024. 令和6年能登半島地震 (講演). NPO法人秩父まるごと博物館 ジオパーク講座

(於：秩父市歴史文化伝承館), 講演要旨, 2p.

本間岳史, 2024. 「日本地質学発祥の地」を訪ねる（講演・現地見学）. 名勝及び天然記念物「長瀬」指定 100 周年記念特別講座（第 3 回）見学資料, 12p.

- 牧野 彰吾
牧野彰吾, 2024. 令和 6 年度「県内希少野生動植物種」植物種選定調査業務報告書. 埼玉県環境科学国際センター. (NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団調査員として共著).
牧野彰吾, 2024. 令和 6 年度埼玉県レッドデータブック 2024 植物編（令和 7 年 3 月刊行予定）.
埼玉県環境科学国際センター (NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団調査員として共著).
- 三上 忠仁
三上忠仁, 2024. 埼玉県東部低地における主な湿地及び浮野とムジナモ自生地の現状報告. 埼玉県立自然の博物館研究発表会.
三上忠仁, 2025. 維管束植物分野 蘚苔類分野. 埼玉県レッドデータブック 2024 植物編.
三上忠仁, 2025. ムジナモ自生地における植物の種別分布状況. 2024 ムジナモ自生地調査報告.
- 三村 昌史
三村昌史, 藤井良造, 木山加奈子, 2024. 埼玉県におけるエゾデンダ *Polypodium sibiricum* Sipliv. (ウラボシ科) の再発見. 埼玉県立自然の博物館研究報告, (18) : 25-30
高橋洋生, 三村昌史, 村上勇樹, 安里瞳, 戸田守, 2024. まばらにしか見つからないミヤコカナヘビの生息環境. 日本爬虫両棲学会第 63 回姫路大会（口頭発表）
安里瞳, 高橋洋生, 戸田光彦, 三村昌史, 梅本巴菜, 大田和朋紀, 猿田朝久, 戸田守, 2025. 生息密度はミヤコカナヘビの生活史形質に影響を与えるか. 日本生態学会第 72 回全国大会（札幌）（一般公演ポスター発表）
三村昌史・清水准一・長田佳久, 2025. 南アルプス（北岳）高山帯のお花畠で発生したシカ食害. モニタリングサイト 1000 高山帯調査速報, (16) : 1-3.
- 川上 高平
佐々木駿尚・草川遙・熊澤亘洋・川上高平・黒須大地・山富二郎, 2024. 最近の武甲山残壁の挙動について, 資源素材 2024 (秋田) .

(5) 国・地方公共団体・関連団体等への指導・助言

氏名	委員名等	依頼・委嘱	期間
高津 導	秩父まるごとジオパーク 推進協議会・協議会員	秩父まるごとジオパーク 推進協議会会长	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
奥村 みほ子 木山 加奈子	埼玉県希少野生動植物種 検討委員会委員	埼玉県知事 (みどり自然課長)	R6. 6. 10～ R9. 6. 9
井上 素子	ユネスコエコパーク 保全活用委員会委員	山梨県森林環境部長	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
山岡 勇太	秩父まるごとジオパーク 推進協議会・運営委員	秩父まるごとジオパーク 推進協議会会长	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
木山 加奈子	武甲山特殊植物保護増殖委員会委員	横瀬町教育委員会	R6. 4. 1～ R8. 3. 31
木山 加奈子	埼玉県レッドデータブック 植物編改訂調査検討委員会委員	埼玉県知事 (みどり自然課長)	R5. 5. 15～ R7. 3. 24
加藤 浩一	長瀬町観光振興計画策定委員会委員	長瀬町長	R5. 4. 1～ R7. 3. 18

令和 6 年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年 度 当 初 目 標
中間評価（9月末実績）
年 度 末 確 定 評 価

施設名 埼玉県立自然の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト（自己点検表）

II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

さらに、川の博物館と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民の皆さんとともに考え方行動しながら、旺盛な博物館活動を開いていきます。

1 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します（データバンク機能）

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

2 資料を活用し、多彩な情報を発信します（情報発信機能）

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。

利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

3 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します（学習支援・人材育成機能）

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

4 様々な人々と連携・交流を進めます。（連携・交流・啓発機能）

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。

こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

2 現状分析と課題の抽出

1 資料の収集・整理・保管

- ア 令和2年度から「館有資料所在点検実施計画」に基づき収蔵資料点検を計画的に実施しているが、従前の計画では、全資料の点検終了までに長期間を要するため、重点化を図り迅速に取り組む必要がある。
- イ 現在、自然系標本を積極的に収集してきた世代が高齢期を迎えており、学術的価値を有するコレクションの寄贈申出が多い状況にある。
新規資料を受け入れるためには、効率的な収蔵方法を検討するなど、収蔵スペース確保に取り組む必要がある。

2 資料を活用した情報発信

- ア 生物系資料についてはGBIF等を通じて資料のデータベースを公開してきたが、取組が不十分である。
- イ 資料のデジタルアーカイブ化に十分に取り組めていない。
- ウ 学説の変化や新収集資料を反映させた常設展示更新を計画的に進める必要がある。

3 学校教育との連携

- ア これまで出張授業や体験学習支援を積極的に行ってきましたが、学校からのニーズに十分応える体制が整備できていない。受入方法や体制を見直す必要がある。
- イ 学校授業で活用できるコンテンツ（動画・貸出用標本等）開発など、新たな学校教育支援の在り方について検討する必要がある。

3 チェックリスト（自己点検表）

(1) 全館共通項目（令和6年9月30日現在）

項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか	2	R9年度までの計画に基づき実施しており、今年度分は完了見込み。
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化（画像を含めた）に取り組んでいるか	2	昨年度策定した資料画像化方針に基づき実施。今年度分は完了見込み。
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか	2	昨年度更新計画を作成したが、具体化が課題。
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか（参加申込方法・プログラム内容・サポート体制等）	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

情報 発 信	①	SNS 等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ことができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県 民 と の 協 働 ・ 地 域 連 携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調 査 研 究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか	3	
施 設 ・ ア メ ニ テ イ	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイドなどユニバーサルデザインへの取組がなされているか	3	
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか	3	
施 設 の 利 活 用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

(2) 館別独自項目（令和6年9月30日現在）

項目		チェック内容	達成度	課題等
資料の保存・管理	①	新規登録資料について適切に保管されているか	2	収蔵スペースの確保が課題。引き続き第一収蔵庫（地学系標本）を中心に効率的な収蔵方法を検討。
	②	資料のデータベースが適切に作成・管理されているか	3	
	③	未整理資料について整理を進めたか	1	新規受入資料の整理や資料チェックを優先して実施。
特別展・企画展	①	目標・狙いを明確化した中・長期的な展示計画（川博の特別展企画含む）を策定し特別展・企画展を実施しているか	3	
	②	年間又は中期的にみて、幅広い年齢層やニーズを持った来館者が楽しめる内容になっているか	3	
	③	従来の資料のほか新しい資料など広い範囲の資料を活用しているか	3	
自然分野をテーマにした学習支援事業	①	体験を通じて自然を学ぶプログラムを取り入れているか	3	
	②	実物資料等を活用した学習支援プログラムを取り入れているか	3	
	③	多様な県民のニーズに応えられるプログラムを実施しているか	3	
	④	博物館や県内の自然遺産を活用したプログラムを実施しているか	3	
県立自然系博物館としての活動	①	県立自然系博物館として県内の施設・団体・個人に資する活動を行っているか	3	
	②	全国の博物館等の自然科学系分野の活動に協力しているか	3	
	③	県内の公共施設が行う展示・企画に協力しているか	3	
	④	職員の専門分野を活かして専門的な知識を情報発信をするとともに、レファレンスに的確に応えているか	3	
	⑤	行政等の文化財保護（天然記念物）・自然保護に関する組織の調査に協力し、専門的な立場から指導・助言を行っているか	3	
	⑥	県内の研究機関、研究者等と情報交換等を行い、その成果を県民に還元しているか	3	
と学校教育の連携	①	学校教育における博物館の活用を促進するための研究・取組を行っているか	3	
	②	博物館資料を活用した強みを生かした取組を行っているか	3	

II 目標や取組の設定

1 中期的な目標及びそれに関する取組の設定

【中期的な目標】

(NO)	(目標)	(取組み期間)
①	計画的な資料整理の重点化	令和5～9年度
②	資料活用促進のための環境整備	令和5～9年度
③	主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化	令和5～7年度

【取組】

- ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検実施計画の実施（年間：26,000点）
 - イ 収蔵スペースの確保
配架の見直し等による効率的な収蔵方法の検討と計画の具体化
- ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア 計画に基づくデータベース公開
 - イ 資料画像化の実施（1,000点）
 - ウ 常設展示更新計画の具体化
- ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - ア 計画に基づくコンテンツ（動画・貸出用標本等）の開発

2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1－6 全般的活用	利用者数	年間入館者と アウトリーチ参加者数	71,210人	110.4%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				78,651人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	68,060人	100.3%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				68,277人		
3	使命1－6 全般的活用	利用者数	1日当たりの 利用者数	230人	109.1%	(年間入館者+アウトリーチ) ÷313日
				251人		
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の 利用状況	HPアクセス数	1,007,370件	153.4%	基準値：699,976件 目標参考値：1,007,363件
				1,545,697件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	130件	90.0%	基準値：107件 目標参考値：126件
				117件		
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料及び 事業等収入額	11,787千円	77.4%	*当該年度予算計上額
				9,128千円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1 データバンク	収集整理・保管	年間の点検資料数	26,000点	100.2%	点検実施計画による
				26,055点		中期的な目標による取組
2	使命1・2 データバンク 情報発信	資料価値	館有資料の展示活用	3,640点	222.3%	基準値：3,635点 目標参考値：4,932点
				8,092点		現状を踏まえた目標値
3	使命1・2 データバンク 情報発信	情報発信	レファレンス件数	420件	77.1%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				324件		
4	使命1・2 データバンク 情報発信	調査研究	県内の自然史に 関する論報文	22件	109.1%	基準値：22件 目標参考値：30件
				24件		現状を踏まえた目標値
5	使命2 情報発信	常設展	アンケートでの 常設展満足度	90%	103.3%	基準値：96% 目標参考値：96%
				93%		現状を踏まえた目標値
6	使命2 情報発信	特別展・企画展	アンケートでの 特別展・企画展満足度	90%	95.6%	基準値：95% 目標参考値：95%
				86%		現状を踏まえた目標値
7	使命2 情報発信	デジタル情報の 利用状況	YouTube再生回数	9,960回	85.7%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				8,535回		
8	使命3 学習支援・人材育成	自然観察会 講座等	アンケートでの 受講者の満足度	95%	104.8%	基準値：97% 目標参考値：99%
				99.6%		
9	使命3 学習支援・人材育成	学校教育への支援	学校団体の 博物館支援件数	170校	95.6%	基準値：139校 目標参考値：170校
				166校		中期的な目標による取組
10	使命3 学習支援・人材育成	社会教育への支援	社会教育関係団体 等への支援件数	35件	114.3%	基準値：17件 目標参考値：33件
				40件		現状を踏まえた目標値
11	使命2・4 情報発信 連携交流啓発	SNSの活用	Xリポスト数	5,840件	64.1%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				3,742件		
12	使命4 連携交流啓発	協働・地域振興	各団体との 共催・協力イベント	6回	100.0%	基準値：6回 目標参考値：6回
				6回		現状を踏まえた目標値

※ 利用者数＝常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数

※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値

目標値：目標参考値の1の位を繰り上げした数値

※ 目標値の設定については、経年の実績と同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組みの概要

1 中期的な目標に係る取組

(1) 計画的な資料整理の重点化

ア 館有資料所在点検 26,055 点。

イ 第1収蔵庫（地質系標本）について、資料の配置換えを行った。

(2) 資料活用促進のための環境整備

ア 文化庁「人材派遣による博物館支援研究」の支援を基に、今年度の計画（データベースの WEB 上での公開とジャパンサーチへの紐づけ）を見直した。結果「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」「古秩父湾の化石」「埼玉県の外来生物」の3テーマについて、資料画像 60 点をホームページ上に公開し、ジャパンサーチと連携した。

イ 資料画像化 1,000 点

ウ 常設展示の更新については、県のシンボルのタイトルパネル、立ち見ケースの照明 LED 化を実施。館内案内板・さわれる剥製 2 体及び、生物展示ホールジオラマ中の鳥類はく製 2 体の更新を行った。

(3) 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化

ア 博物館紹介動画を作成。植物・動物分野のコンテンツ（学校教育支援プログラム・貸出用標本等）を製作した。

2 常設展の充実

- ・岩畳を紹介する「長瀬の自然コーナー」の季節に応じた定期的交換。
- ・やさしい解説パネルを追加（岩石の成因マンガ作成、実習生作成の解説採用など）

3 特別展、企画展等の実施

(1) 企画展

- ・入間川流域の自然遺産調査から見えたこと（3/9～6/16、15,816 人）
- ・外来生物 in 埼玉！（6/29～10/14、30,154 人）
- ・長瀬自然遊覧（10/26～2/24、18,549 人）

(2) 特別展

- ・秩父鉱山の面影～ニッチツが所有した希代の鉱物標本群～（3/8～6/15、開催中）

(3) パネル展

- ・空から見た入間川（2/27～6/16）
- ・生痕化石の世界（6/18～10/6）
- ・標本作成の技動物編（10/26～2/24）
- ・埼玉の森をつくる木たち（2/4～6/15、開催中）

(4) 共催展

- ・第15回自然科学展～さいたまの動物たち～（7/20～8/29、2,820 人）

(5) 小学校巡回企画展

- ・寄居町立桜沢小で実施（6/24～7/5、677 人）
- ・寄居町立男衾小で実施（11/25～12/6、557 人）

4 講座・講演会等

(1) 自然史講座

- ・鉱物標本づくり（5/25、20 人）
- ・うんち比べ、足跡比べ（6/15、21 人）

- ・外来種でつくる昆虫標本 (7/20、29人)
- ・研究発表会 (8/27、37人)
- ・化石のレプリカづくり (9/21、21人)
- ・身近な植物でお正月飾り (12/21、14人)
- ・博物館の標本で動物のからだを調べよう！ (3/1、11人)

(2) 観察会

- ・地衣さんぽ in 長瀬岩畳 (4/20、16人)
- ・荒川で石の観察 (5/11、30人)
- ・岩畠でトンボの観察 (10/5、雨天中止)
- ・シダ散歩 in 日高 (11/30、15人)
- ・岩畠地質観察会 (12/14、25人)
- ・冬鳥観察会入門編 荒川で水鳥を観察しよう (1/25、17人)
- ・冬鳥観察会中級編 入間川で野鳥を探そう (2/8、15人)

(3) 講師派遣 (社会教育団体等) 40回、2,742人

5 学校との連携

- ・体験学習 17回 722人
- ・学校への出前授業 15回 978人
- ・学校利用受入れ 125校 6,092人
- ・虎岩 6校 510人
- ・物品貸出 3校
- ・小学校巡回企画展 2校、1,234人【再掲】

6 関係機関との連携

- (1) 長瀬町観光協会との連携
 - ・青もみじライトアップ (5/1～6/9)
 - ・長瀬観光の日 (7/16) 事業協力
 - ・もみじライトアップ (11/8～12/1)
- (2) 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念式典 (12/7)
 - ・当館学芸員がトークセッションに出演
 - ・絵画コンテスト「埼玉県立自然の博物館館長賞」
- (3) 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念関連事業
 - ・長瀬町教育委員会と連携
 - 名勝及び天然記念物「長瀬」指定100周年記念特別講座 (3回)
ながとろ水まつり 学習ブース出展 (9/15)
 - ・ふるさと長瀬を愛する会との連携
地質学の宝庫長瀬「地球の窓 長瀬」講演会 (10/12)
 - ・企画展「長瀬自然遊覧」開催【再掲】
- (4) 上長瀬駅及びその周辺活性化委員会との連携
 - ・県民の日にキッチンカー出店 (11/14)
- (5) 寄居町教育委員会との連携
 - ・巡回企画展を実施【再掲】

III 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

- 中期的な目標に関する取組は、概ね順調に実施できた。
 - ① 計画的な資料整理の重点化
 - ア 館有資料所在点検について、目標（26,000 点）を達成（26,055 点）。
 - イ 収蔵スペースの確保は計画に沿って整理を進めた。
 - ② 資料活用促進のための環境整備
 - ア データベース公開について、文化庁の「人材派遣による博物館支援研究」による専門家の技術的な支援の基に公開方法を見直し、3月中に試験公開を行った。
 - イ 資料画像化については、資料の撮影は目標数を達成。画像データベースへの入力が完了すれば目標の 1,000 点を達成した。画像データベースの運用が軌道に乗ったため、着実に資料のデジタル画像化とその管理体制が整った。
 - ウ 常設展示更新計画の具体化
 - 計画していたメガロドンの解説パネルの更新及び館内案内図の更新は来年度実施することとしたが、その他は計画どおり実施した。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
 - 計画に基づきコンテンツ（動画・貸出用標本等）を製作した。また、全県への学校支援を目指したリモート授業実施体制の整備や更なるプログラムの充実を図るため、令和 8 年度の文化庁の Innovate MUSEUM 事業への応募を計画している。
- 利用者数(入館者及びアウトリーチ)について、年度当初の目標(71,210 人)を達成(78,651 人)。

特に、今年度は、夏休み前に入館者の動向分析を実施し、職員全体で夏休み及びその後の入館者数増加のための対応策を検討し、取組を実施した。また、企画展「長瀬自然遊覧」では、成人の観光客をターゲットとした広報戦略を立て、長瀬町観光協会の協力を得て作成したパンフレットを地元商店街を中心に配布するなど、観光客の誘致を図った。
- 常設展満足度は目標(90%)を達成(92.8%)。特別展・企画展満足度は目標(90%)には未達(86.0%)。
- 学校団体の博物館利用件数については、目標(170 校)をわずかに未達(166 校)。体験学習、出前授業、学校利用受入れは、概ね昨年度と同等であったが、物品貸出が減少 (R5 実績 9 校→R6 実績 3 校)。
- Youtube の再生回数は、新たに企画展関連の動画（2 本）を公開したが、目標(9,960 回)を未達(8,535 回)。
- X のリポスト数は、目標（5,840 件）に未達（3,742 件）。

(2) 課題と対応の方向

○ 中期的な目標に関する課題と対応の方向

- ・ 令和4年度、当館が重点的に取り組むべき課題として、課題解決に向けた目標と取組期間を設定(3年～5年計画)した。引き続き計画に従って取組を進めていく。

① 計画的な資料整理の重点化(5年計画)

館有資料の所在点検は、資料データベースを公開する上での前提となるため、よりスピード感をもって進めていく必要がある。

第一収蔵庫のスペースの確保については、引き続き整理を進めて効率的な収蔵方法を検討し、5年目(令和9年度)に具体化することを目標として、予算の確保を検討していく。

② 資料活用促進のための環境整備（5年計画）

資料データベース公開及び資料画像化については、方針に則り、計画どおり着実に進めていく。

特に資料データベース公開については、文化庁「人材派遣による博物館支援研究」において専門家より提案を受けたデータベース管理システムの導入について実現可能性を検討し、計画の見直しも含めて、柔軟に対応していく。

常設展示については、基本コンセプトを基に、計画を具体化していくとともに、予算の確保を検討していく。

③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化（3年計画）

全県への学校支援を目指したリモート授業実施体制の整備や更なるプログラムの充実を図るため、令和8年度の文化庁の Innovate MUSEUM 事業への応募を計画しているため、取組期間を令和5～7年度から令和5～8年度に変更する。

○ 中期的な目標以外の課題と対応の方向

- ・ 今年度に引き続き「入館者の動向分析」に基づいた集客戦略を策定し、利用者や入館者の増加に努めていく。
- ・ 特別展・企画展については、コンセプトやターゲット層を明確化にした上で、展示内容、広報活動、オリジナルグッズ開発などを一体的に企画した魅力ある展示を実施していくことで、満足度の向上を目指す。

2 外部評価委員等によるコメント

- この評価シートでは、学芸員一人ひとりの自己研鑽（研究）や社会教育（実践）が数字として表れてこない。そこが重要である。
例えば、各学芸員の研究テーマなどを評価シートで発信できるとよい。
- 自己評価に至った経緯を PowerPoint で見せるなど、具体的な活動を紹介してもらえると、印象にも残るし、自分たちもそれを外部に紹介もできる。
- 観光の目線から話をすると、パンフレットなどの広報物が素晴らしいと思っている。長瀬の商店街に掲示されていてよく目立っていると感じる。
- 評価項目に「研究」が入ってこないのは、そこに予算が使われていないからだという印象を受けてしまう。
資料収集、研究、その成果をアウトプット（展示や普及活動）、この流れがとても大事で、そこに力点を置かれていないと感じてしまう。
- 長瀬の良さや博物館の持つ大事な側面を理解していない保護者が増えていると感じる。地域の方や保護者の方に長瀬を理解していただき、博物館にも足を運んでもらえるように、連携して取り組めるものは一緒にやっていきたい。
- 評価シート中の目標値に学校の数を出しているが、校数が今後減っていくことが予想される。割合で出していくなどの工夫が必要だ。
- 資料の収集と保管は博物館の根本的な業務であり、資料庫の充実は必須と考える。何とか多くの予算を獲得していただきたい。
- インフレが進んでいるが、入館料が少々安すぎると感じる。見直しについても検討する時期に来ていると感じる。



Kobaton & Saitamatch

埼玉県立自然の博物館報 第20号

令和7年7月1日発行

編集・発行 埼玉県立自然の博物館

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町大字長瀬 1417-1

TEL.0494-66-0404 (総務)・0407 (学芸)

FAX.0494-69-1002

E-mail t660404@pref.saitama.lg.jp

URL <https://www.shizen.spec.ed.jp/>